

## 1.2 消費者 Web モニターアンケート調査結果

### 1.2.1 調査方法

#### (1) 対象と方法

東京都民 1,000 人<sup>1</sup>を対象とした。具体的には、東京都の人口統計<sup>2</sup>に基づき、男女別、世代別（10 歳刻み）の割付を行い、Web モニターアンケート調査を実施した。

#### (2) 期間

平成 21 年 2 月 27 日（金）～3 月 4 日（水）に実施した。

### 1.2.2 調査結果

#### (1) 回答者の属性

本調査は、東京都民を対象としている。男女の比率は男性 51.1%、女性 48.9%であり、東京都の人口統計を反映している。

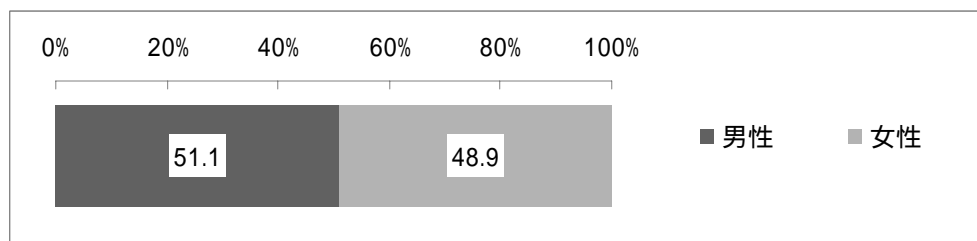


図 1.2.1 男女比率 (n=1000)

回答者の職業については、会社員が 47.1%と最も多い。次いで主婦・主夫(17.1%)、パート・アルバイト(11.3%)と続く。その他の回答は、定年退職者、医師、無職などである。

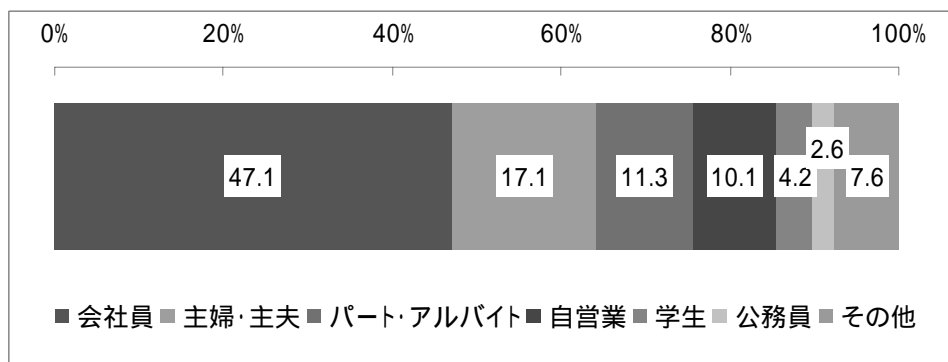


図 1.2.2 回答者の職業 (n=1000)

回答者の世帯構成の傾向としては、家族世帯が約半数(52.3%)を占め、次いで単身

<sup>1</sup> (株) 楽天リサーチの会員モニター(160万人)を活用した。

<sup>2</sup> 住民基本台帳による東京都の世帯と人口(町丁別・年齢別)/平成 20 年 1 月

世帯（23.9%）、夫婦のみ世帯（21.2%）と続く。

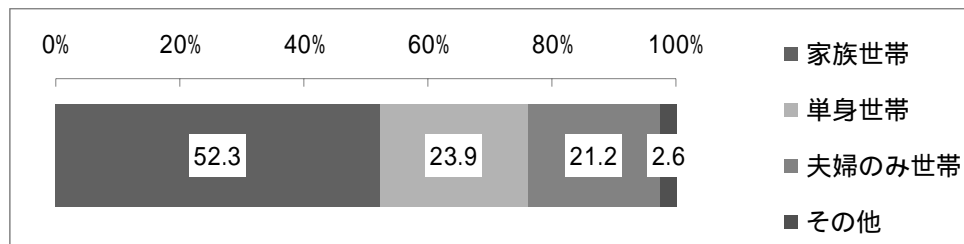


図 1.2.3 回答者の世帯構成 (n=1000)

家族世帯と回答した人の中で、家族内に 5 歳未満の幼児がいる人は、21.6%である。

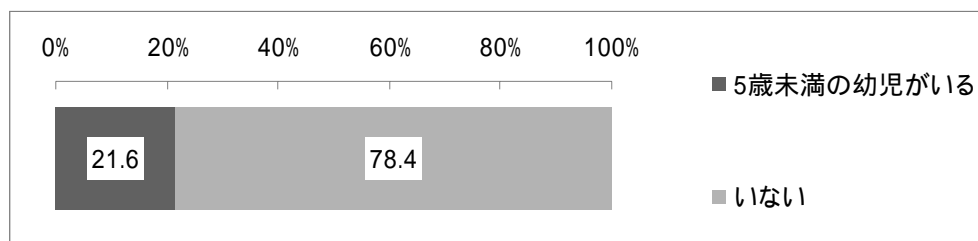


図 1.2.4 家族内に 5 歳未満の幼児がいる割合 (n=523)

家族世帯と回答した人の中で、家族内に 5 歳以上 10 歳未満の小児がいる人は 17.4% 占める。

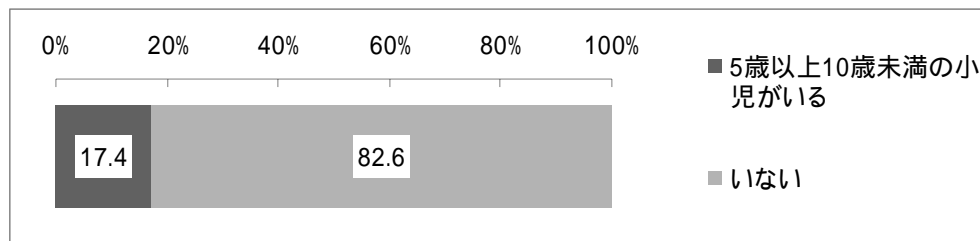


図 1.2.5 家族内に 5 歳以上 10 歳未満の小児がいる割合 (n=523)

家族世帯と回答した人の中で、家族内に 65 歳以上の高齢者がいる人は、26.8%である。

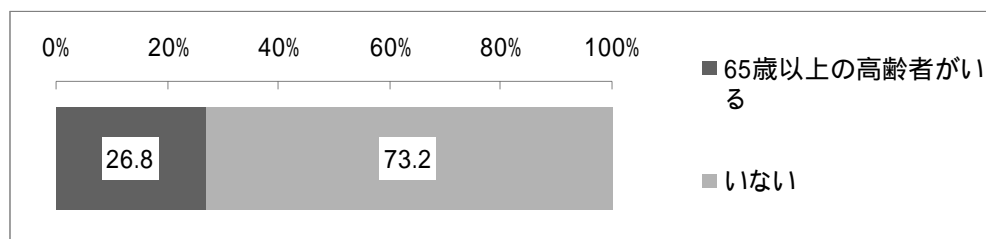


図 1.2.6 家族内に 65 歳以上の高齢者がいる割合 (n=523)

## (2) 食肉の生食の実態

### 【食肉の生食の有無】

この3ヶ月に、食肉を生で食べたことがある人は、全体の40.3%である。

なお、本調査でいう「食肉を生で食べる(又は生食)」とは、生や生に近い状態で食べることを目的とした食肉料理を食べることを指す。意図的に加熱調理を一切行っていないか、表面のみ加熱した食肉(レバーなどの内臓を含む)であって、ステーキのレアやローストビーフ、不注意で加熱不足となってしまった半生状態の食肉は除く。

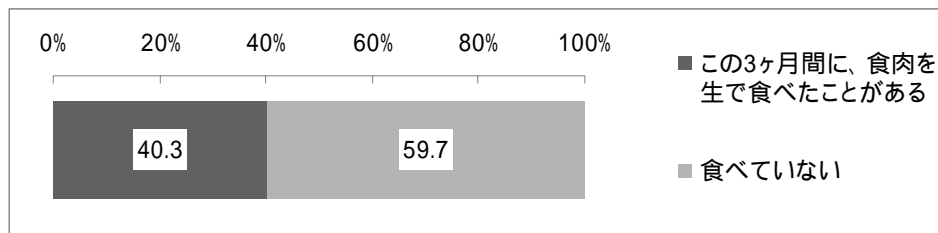


図 1.2.7 3ヶ月以内における食肉の生食の有無 (n=1000)

男女別では、女性より男性の食べている割合が高い傾向にある。

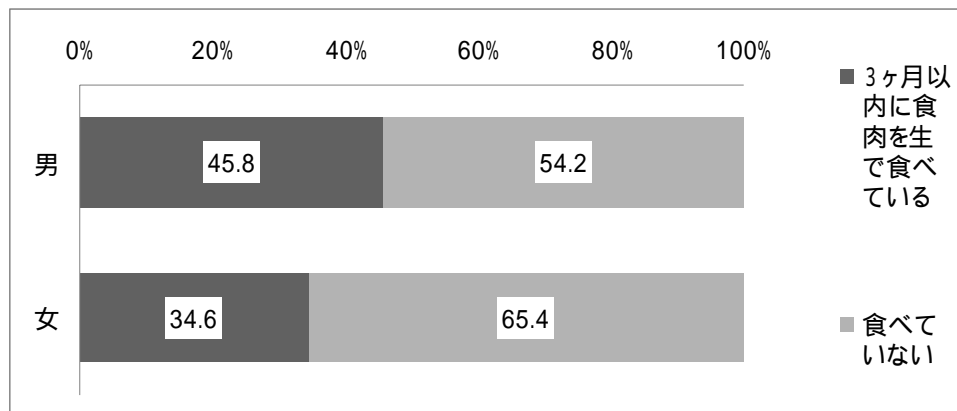


図 1.2.8 男女別、食肉を生で食べている割合 (n=1000)

世代別に見ると、若い世代ほど食肉を生で食べており、年齢が高い世代ほど食べていない傾向がある。

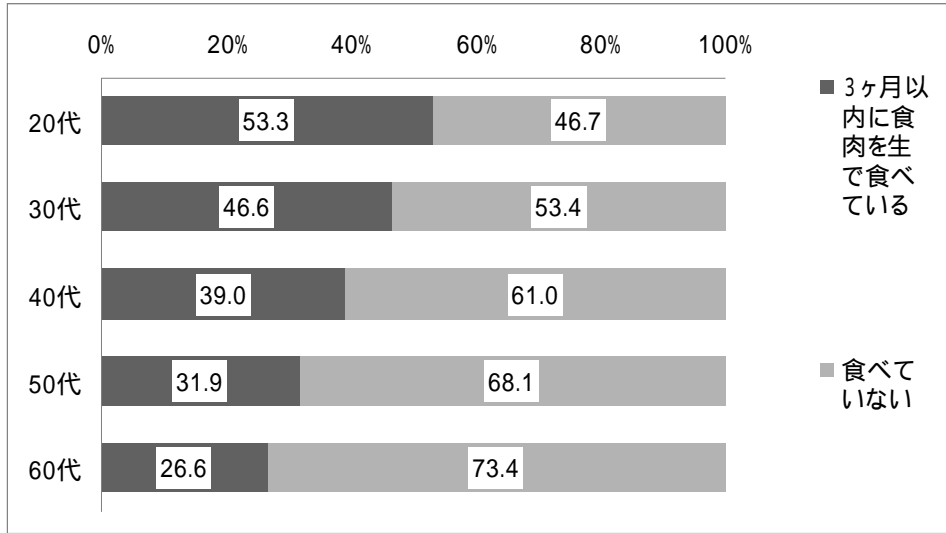


図 1.2.9 世代別の食肉を生で食べている割合 (n=1000)

年代男女別では、20歳代を除き、各世代とも男性の方が女性よりも「食べている」と回答している割合が高い。年齢の若い世代ほど食肉を生で食べている傾向がある。

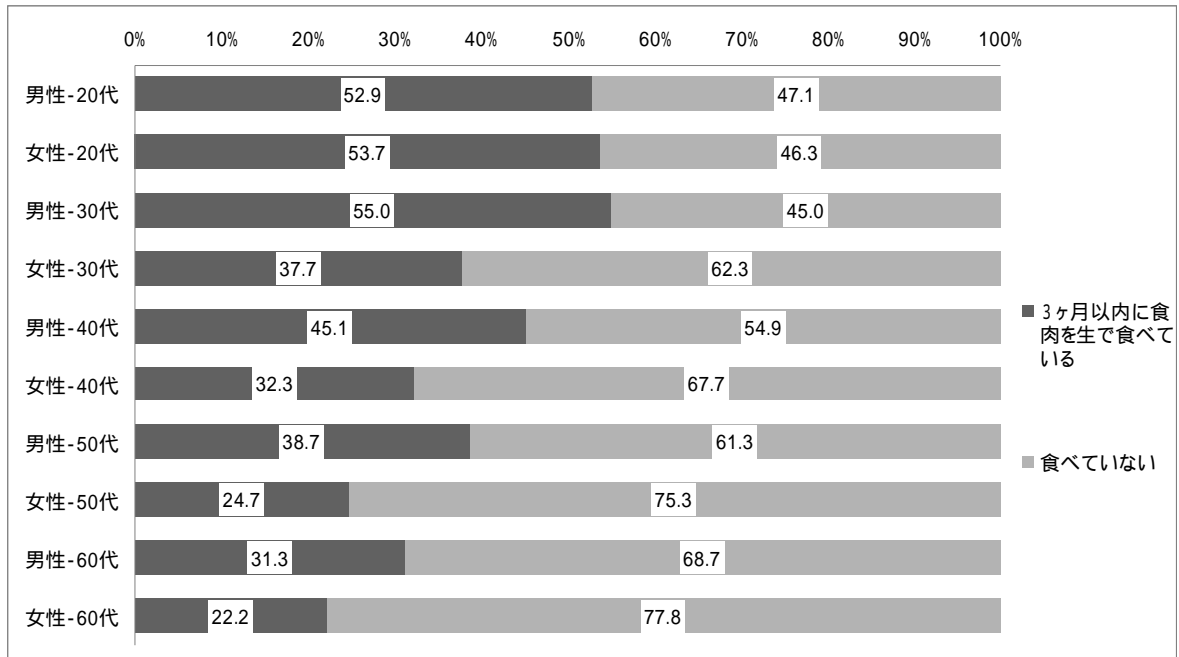


図 1.2.10 年代男女別、食肉の生食の有無 (n=1000)

子どもがいる世帯と高齢者がいる世帯で、食肉の生食の傾向の違いがあるかをみると、5歳未満の幼児がいる世帯で、全体と変わらない割合で生食をしている。

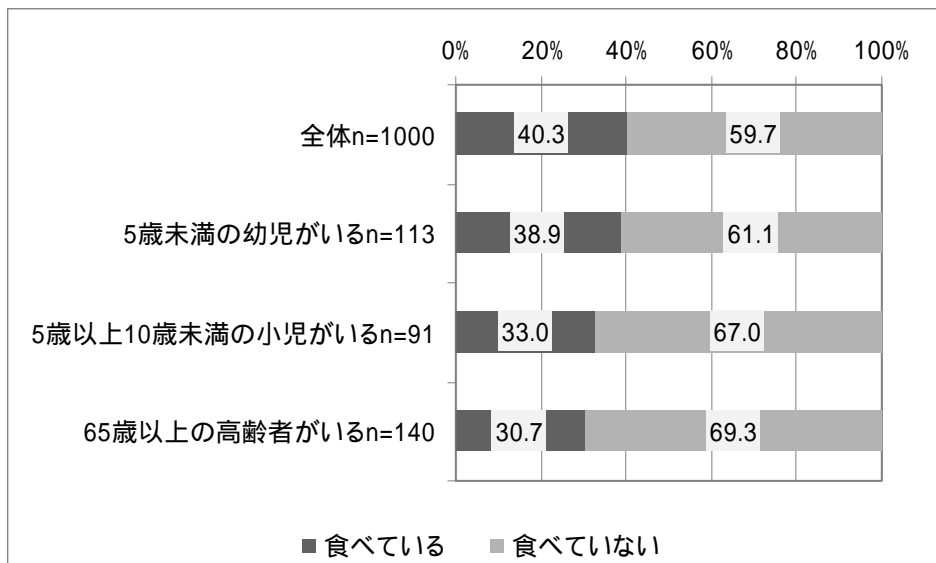


図 1.2.11 子どもがいる世帯と高齢者がいる世帯での、食肉の生食の傾向の違い

職業別には、学生(52.4%)の食べている割合が最も高く、次いで、公務員(50%)、会社員(46.7%)、自営業(40.6%)と続く。

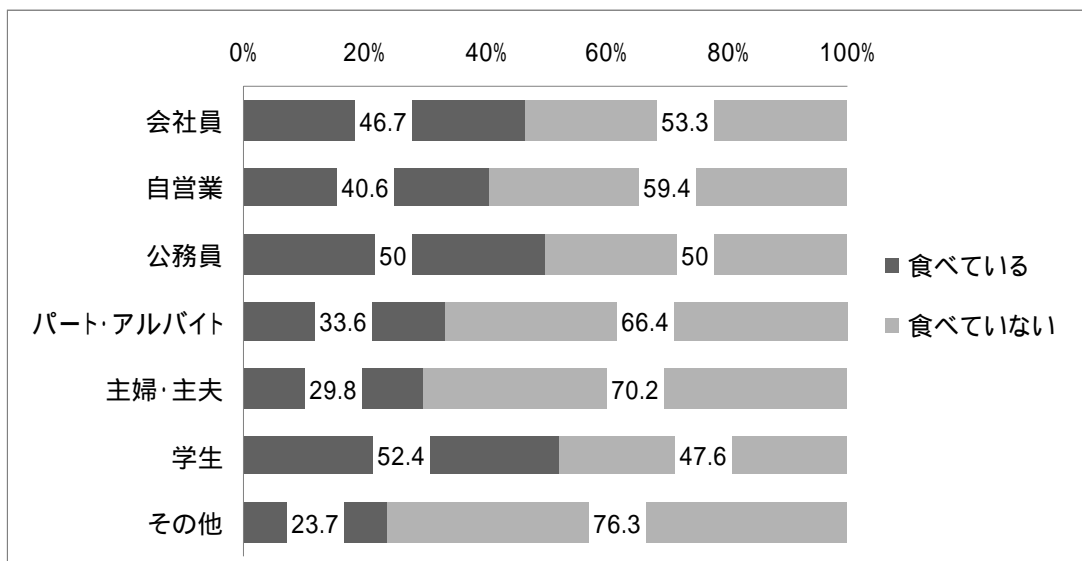


図 1.2.12 職業別、食肉の生食の有無 (n=1000)

以下は、本調査において、この3ヶ月間に食肉を生で食べたことのあると回答した人の、具体的な「食肉を生で食べる行動」の実態である。

### 【食肉の生食の頻度】

この3ヶ月間に、食肉を食べた頻度については、1回だけと回答した人が34.5%、月に1回程度と回答した人が38.0%、月に2・3回程度と回答した人が17.9%で、頻度が高くなるほど食べていると回答する割合は低くなる傾向にある。その他に回答している人はごく僅かであるが、自由記述を参照すると、週に3回、4回、5回、6回の回答がそれぞれ一つある。

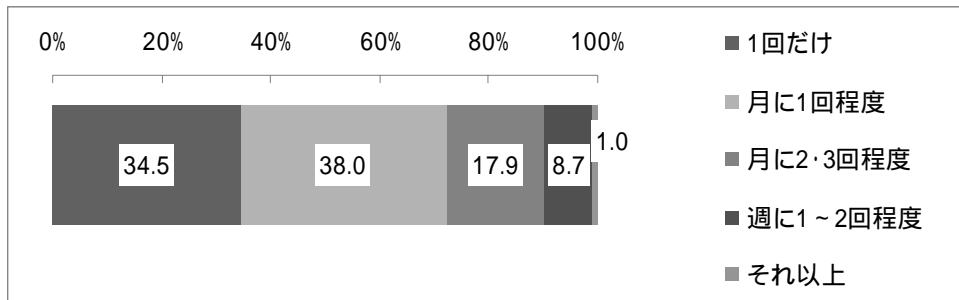


図 1.2.13 3ヶ月以内における食肉の生食の頻度 (n=403)

年代別にみると、20代・30代では月に1回以下という人が75%強、50代・60代で生食をする人は、3人に1人が月に2・3回以上と高頻度で生食をするとの結果が得られている。

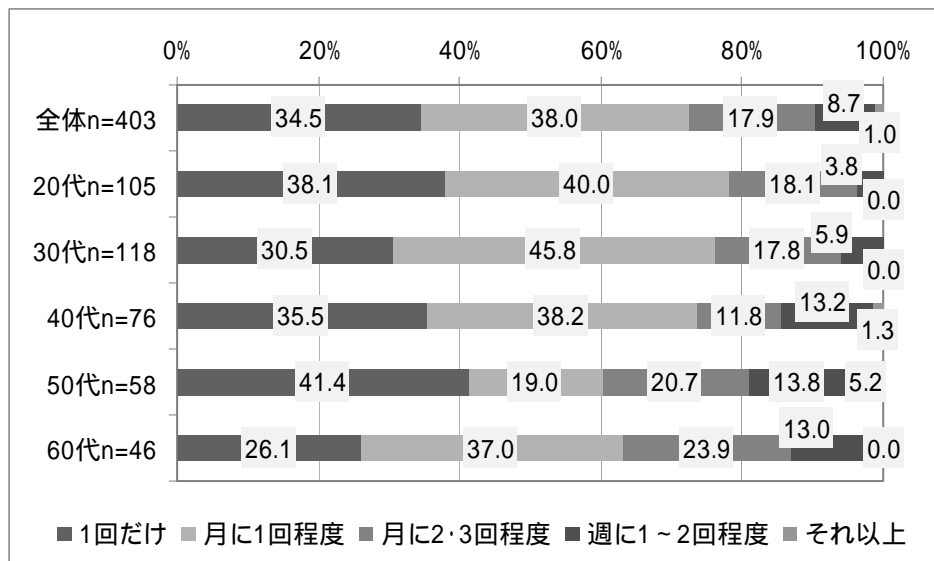


図 1.2.14 年代別、食肉の生食の頻度

### 【よく食べるメニュー】

よく食べる生食のメニューの中で、最も回答が多いのは、「牛肉のユッケ・タルタルステーキ」(54.3%)で、次いで「牛肉のたたき」(35.5%)、「馬肉の刺身」(33.0%)、「とりわさ・鶏のたたき」(28.3%)と続く。レバーなど内臓肉については、「牛レバー」(23.6%)が最も多く、次が「レバー・砂肝など鶏の内臓肉の刺身」(23.3%)であった。

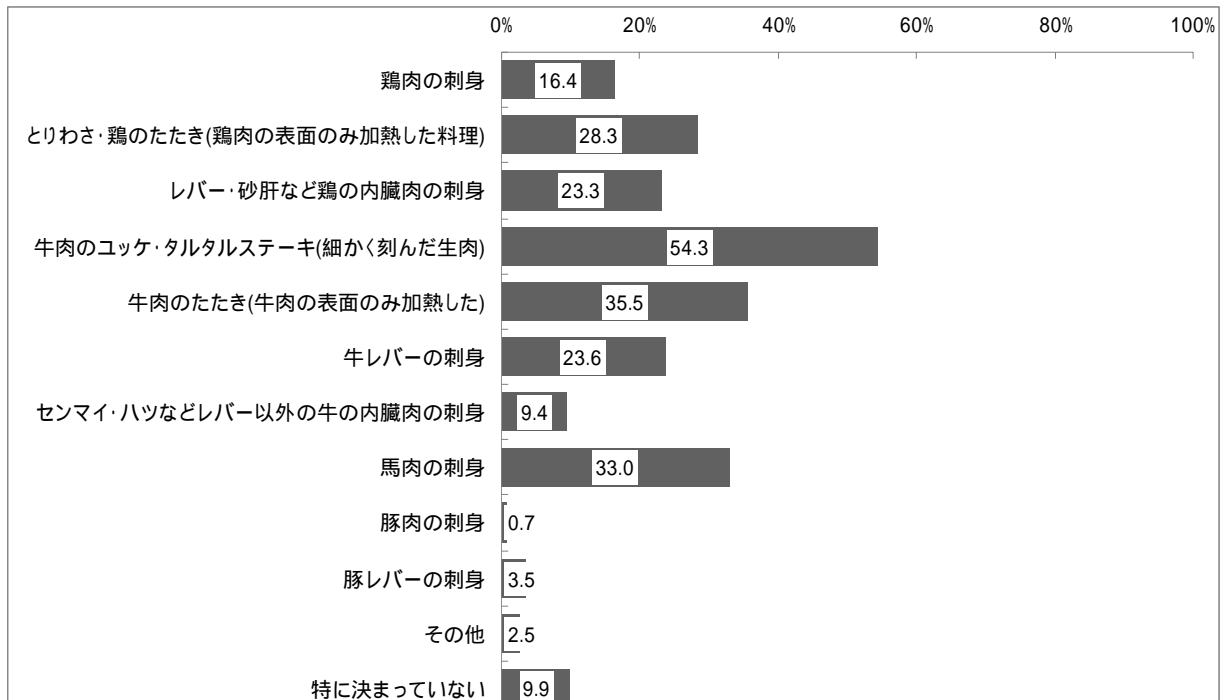


図 1.2.15 よく食べる生食メニュー (n=403) (複数回答)

食肉の種類別に集計すると、牛肉 294(73.0%)、鶏肉 183(45.4%)、馬肉 133(33.0%)、豚肉 15(3.7%)の順に生食メニューが食べられている。この結果から、鶏肉を生で食べる割合が、馬肉よりも高いことが示された。また、豚肉については、少数だが生で食べる人がいることも示唆された。

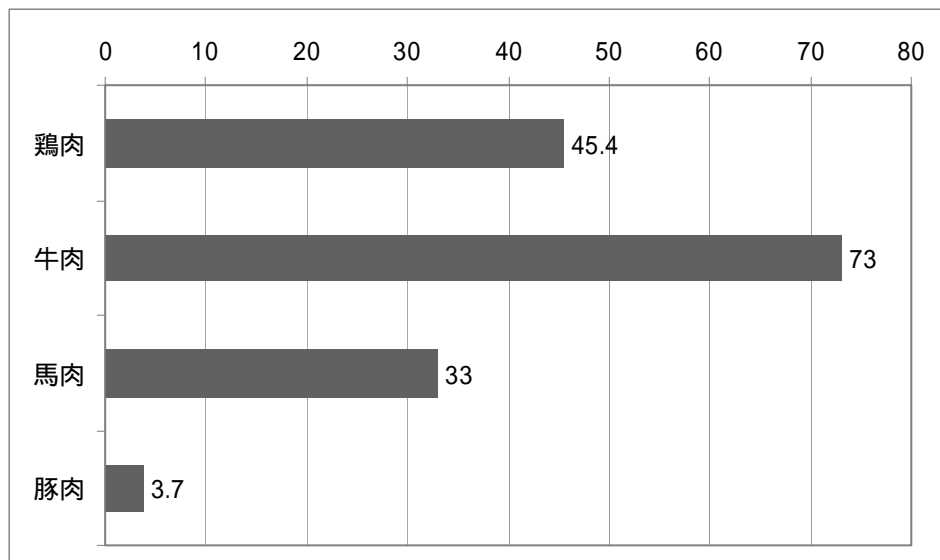


図 1.2.16 食肉の種類別に見たよく食べる生食メニュー (n=403)

更に、職業別によく食べる生食メニューの傾向をみると、学生がよく食べるメニューは、牛肉のユッケ・タルタルステーキや牛肉のたたきの回答の割合が高く、全体の傾向とは異なることが分かる。

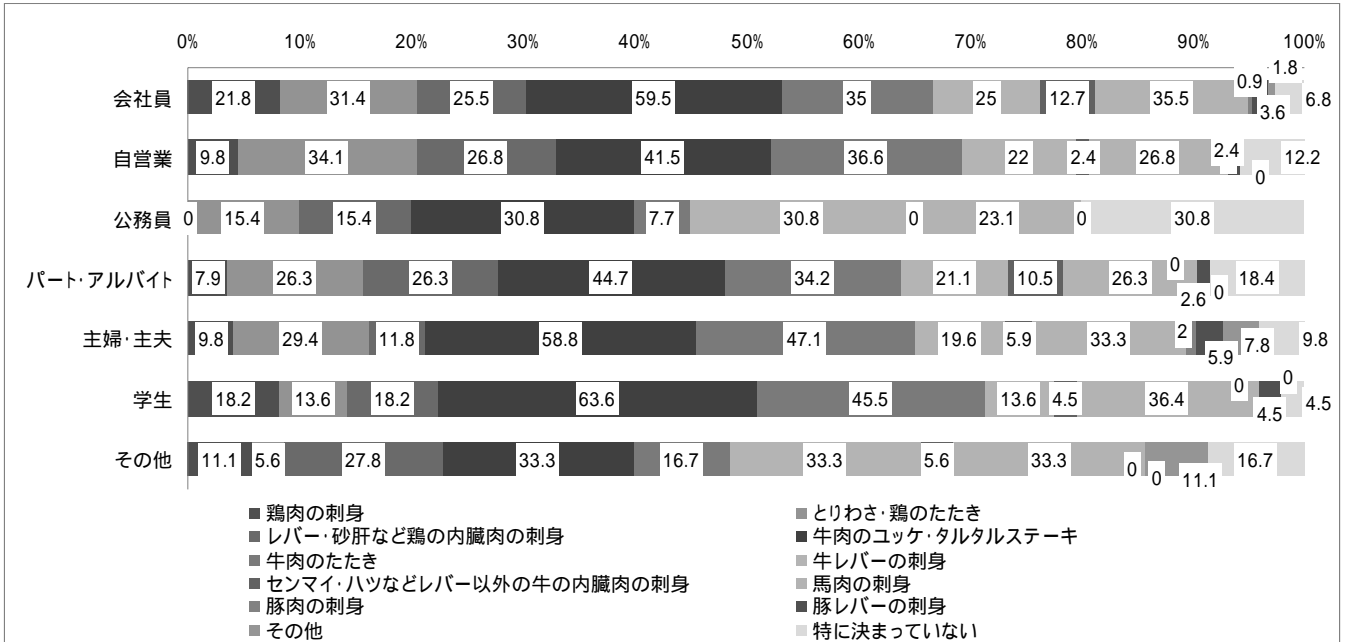


図 1.2.17 職業別によく食べるメニュー (n=403)

子どもがいる世帯によく食べる生食メニューの傾向をみると、5歳未満の幼児がいる世帯と全体との傾向がほとんど変わらないことが分かる。

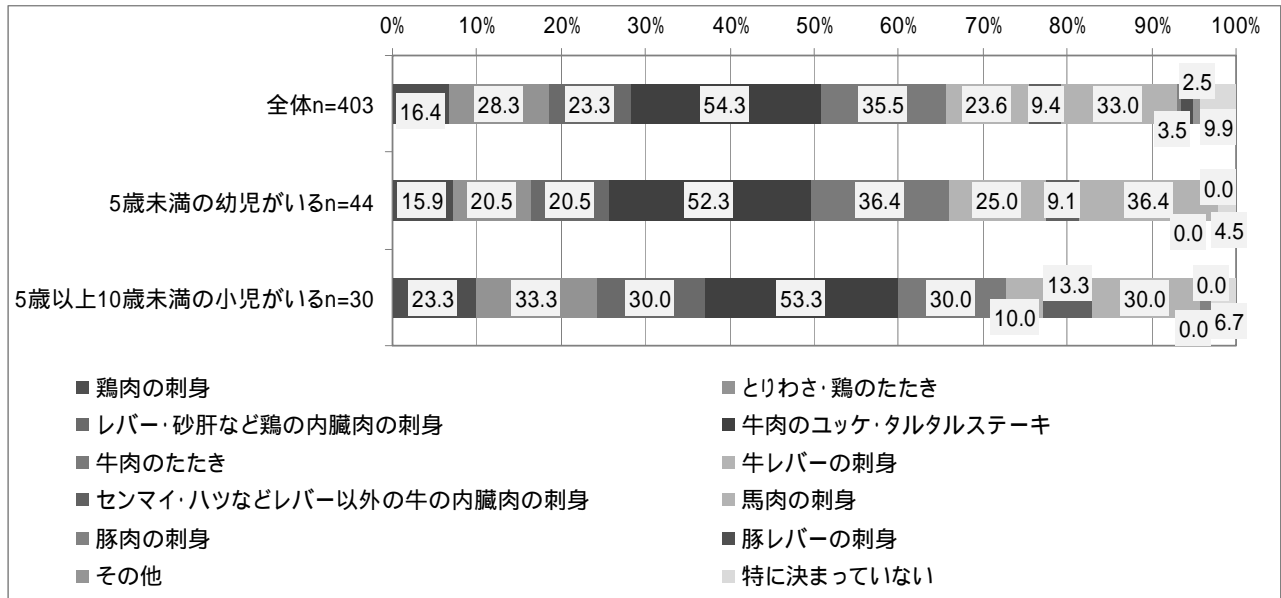


図 1.2.18 子どものいる世帯によく食べる生食メニュー



【食べた場所】

食肉を生で食べた場所については、飲食店（79.7%）が最も多い。自宅で食べたという回答も18.6%ある。バーベキューなど野外で食べたという回答は無かった。

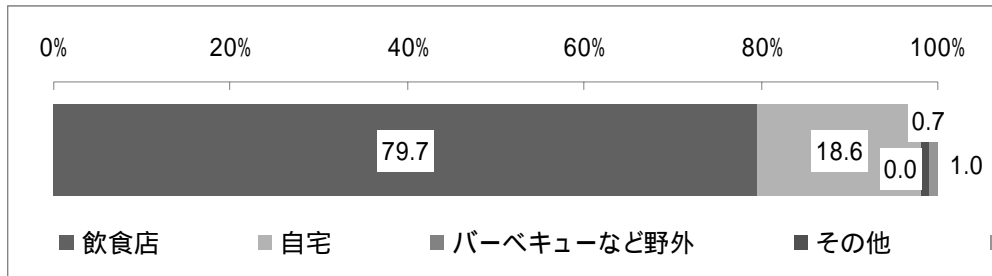


図 1.2.19 食肉を生で食べた場所 (n=403)

飲食店と回答した人の食べたお店の形態については、焼肉専門店（55.8%）が最も多く、半数強の人が回答している。次いで、居酒屋（29.6%）が多い。焼き鳥専門店・串焼き専門店は9.3%の回答であった。

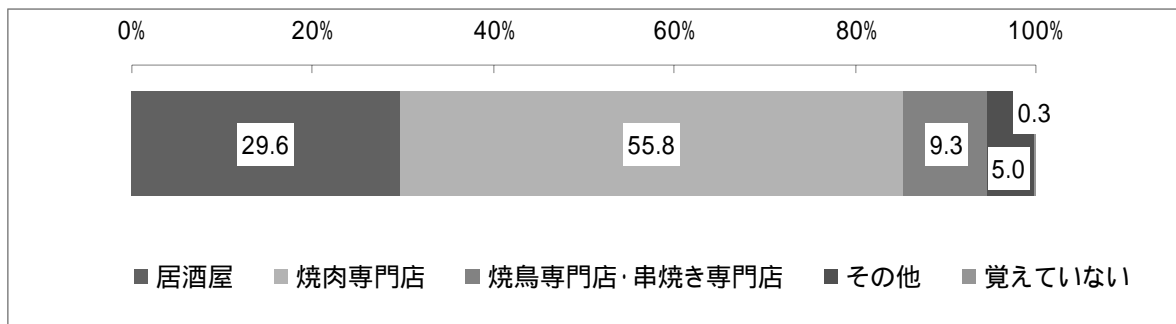


図 1.2.20 具体的な飲食店の形態 (n=321)

飲食店と回答した人の家族形態別傾向をみると、単身世帯、夫婦のみ世帯、家族世帯とも焼肉専門店の回答の割合が最も高い。単身世帯については、居酒屋（42.4%）と回答した人の割合が他の家族構成の場合よりも高く、焼肉専門店の回答と比べても2%の違いだけで大差ない。他方、家族世帯や夫婦のみ世帯では、焼肉専門店(家族世帯59.1%、夫婦のみ世帯66.2%)の回答の割合が高いことが顕著である。この結果から、複数の家族構成の場合には、居酒屋よりも焼肉専門店で食肉を生で食べるケースが多いことが示唆される。更に、家族構成の問いに対して、その他と回答した人が26人存在する。この人たちがどのような家族形態であるか、本調査では自由記述欄を設けなかったため不明である。

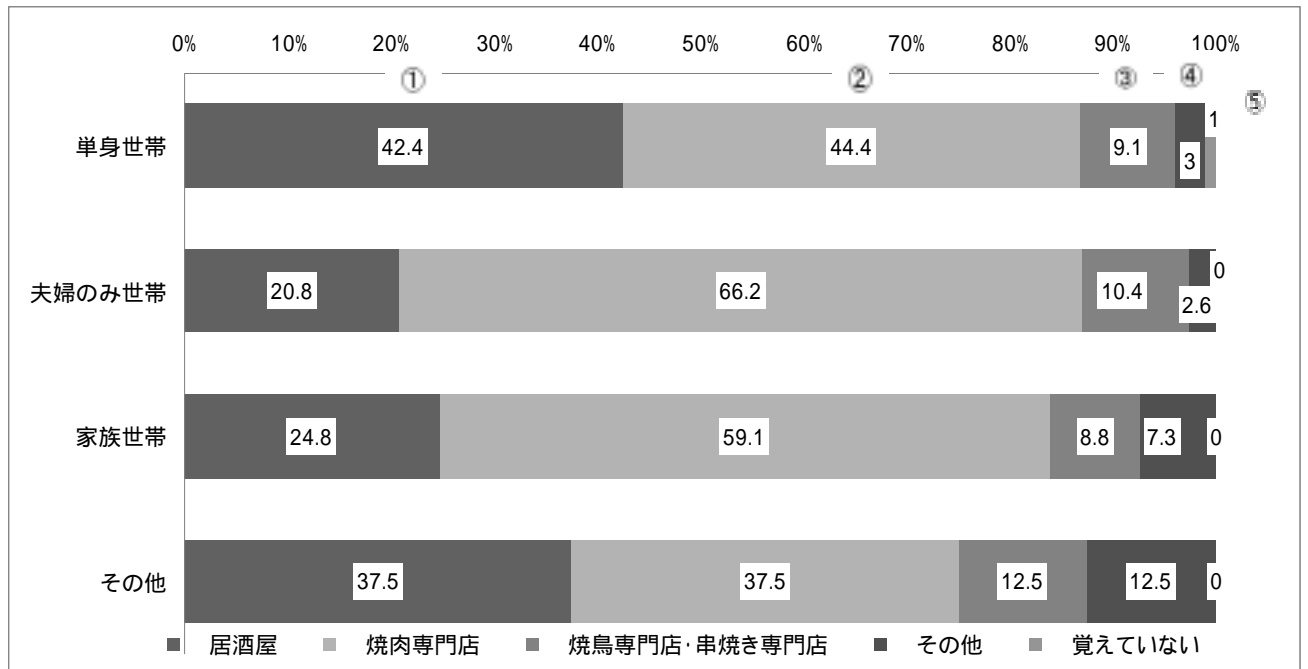


図 1.2.21 家族形態別、飲食店の形態 (n=403)

子どもがいる世帯と高齢者がいる世帯の食べた飲食店については、焼肉専門店の割合が高い。

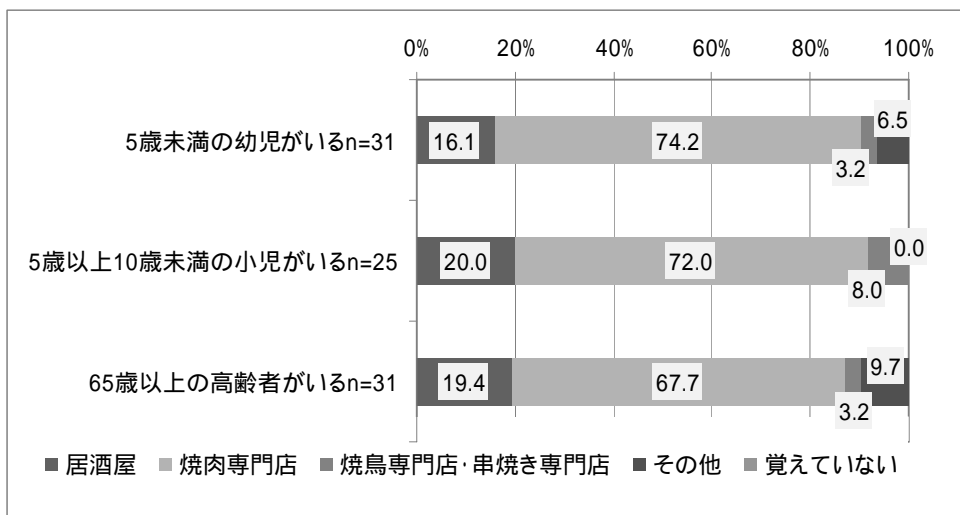


図 1.2.22 子どもがいる世帯と高齢者のいる世帯での、食肉を生で食べた飲食店

更に職業別に食べた飲食店の傾向をみると、学生は居酒屋が多い傾向にある。<sup>3</sup>

表 職業別、食肉を生で食べた飲食店

		n	居酒屋	焼肉専門	焼鳥専門・串焼専門	その他	覚えていない
全体		321 100.0	95 29.6	179 55.8	30 9.3	16 5.0	1 0.3
Q1S3	会社員	182 100.0	54 29.7	101 55.5	18 9.9	8 4.4	1 0.5
	自営業	29 100.0	5 17.2	19 65.5	5 17.2	0 0.0	0 0.0
	公務員	12 100.0	4 33.3	7 58.3	1 8.3	0 0.0	0 0.0
	パート・アルバイト	27 100.0	8 29.6	15 55.6	3 11.1	1 3.7	0 0.0
	主婦・主夫	37 100.0	9 24.3	21 56.8	3 8.1	4 10.8	0 0.0
	学生	19 100.0	11 57.9	8 42.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他	15 100.0	4 26.7	8 53.3	0 0.0	3 20.0	0 0.0

ここで、飲食店の種類とよく食べるメニューとのクロス集計の結果を参照すると、飲食店の種類ごとに提供しているメニューが異なることがわかる。

表 飲食店の種類とよく食べるメニューのクロス集計結果

		n	鶏肉の刺身	きとりわさ・鶏のたたき	レバー・臓肉の刺身など	タ牛ル肉のステーキ・タル	牛肉のたたき	牛レバーの刺身	臓レセ肉の刺身以外のハツなど	馬肉の刺身	豚肉の刺身	豚レバーの刺身	その他	特に決まっていない	
全体		403 100.0	66 16.4	114 28.3	94 23.3	219 54.3	143 35.5	95 23.6	38 9.4	133 33.0	3 0.7	14 3.5	10 2.5	40 9.9	
Q2S4	居酒屋	95 100.0	17 17.9	31 32.6	18 18.9	50 52.6	33 34.7	20 21.1	8 8.4	47 49.5	1 1.1	3 3.2	0 0.0	4 4.2	
	焼肉専門店	179 100.0	27 15.1	41 22.9	50 27.9	126 70.4	58 32.4	52 29.1	22 12.3	51 28.5	0 0.0	5 2.8	3 1.7	12 6.7	
	焼鳥専門店・串焼き	30 100.0	12 40.0	19 63.3	15 50.0	13 43.3	11 36.7	9 30.0	6 20.0	8 26.7	1 3.3	4 13.3	0 0.0	3 10.0	
	その他	16 100.0	2 12.5	4 25.0	3 18.8	6 37.5	5 31.3	0 0.0	1 6.3	8 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 25.0	2 12.5
	覚えていない	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

<sup>3</sup> nが少ないので参考程度に挙げた。

次に、食肉を生で食べた頻度によって食べた場所の違いはあるかについて分析した。食べる回数の多い人、具体的には、週に1～2回以上(28.6%)、それ以上(50%)と回答している人は、全体の回答や食べる回数の低い人に比べて、自宅で食べていると回答している割合が高い傾向にある。

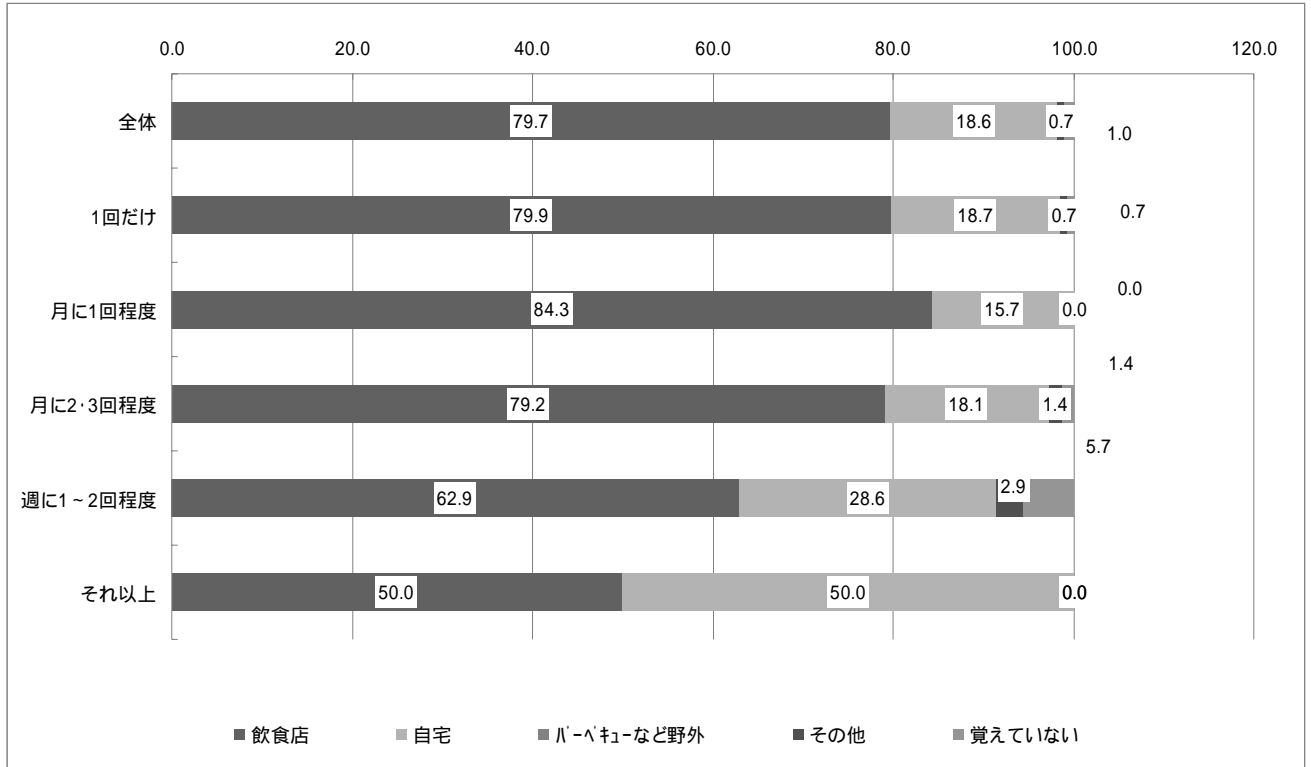


図 1.2.23 頻度別、食べている場所 (n=403)

職業別にみると、公務員（92.3%）が飲食店で食肉を生で食べる割合が高い傾向にある。次いで、会社員（82.7%）が飲食店と回答している割合が高い。他方、自営業（29.3%）、パート・アルバイト（28.9%）、主婦・主夫（25.5%）は、自宅で食べると回答している人が2割以上存在する。

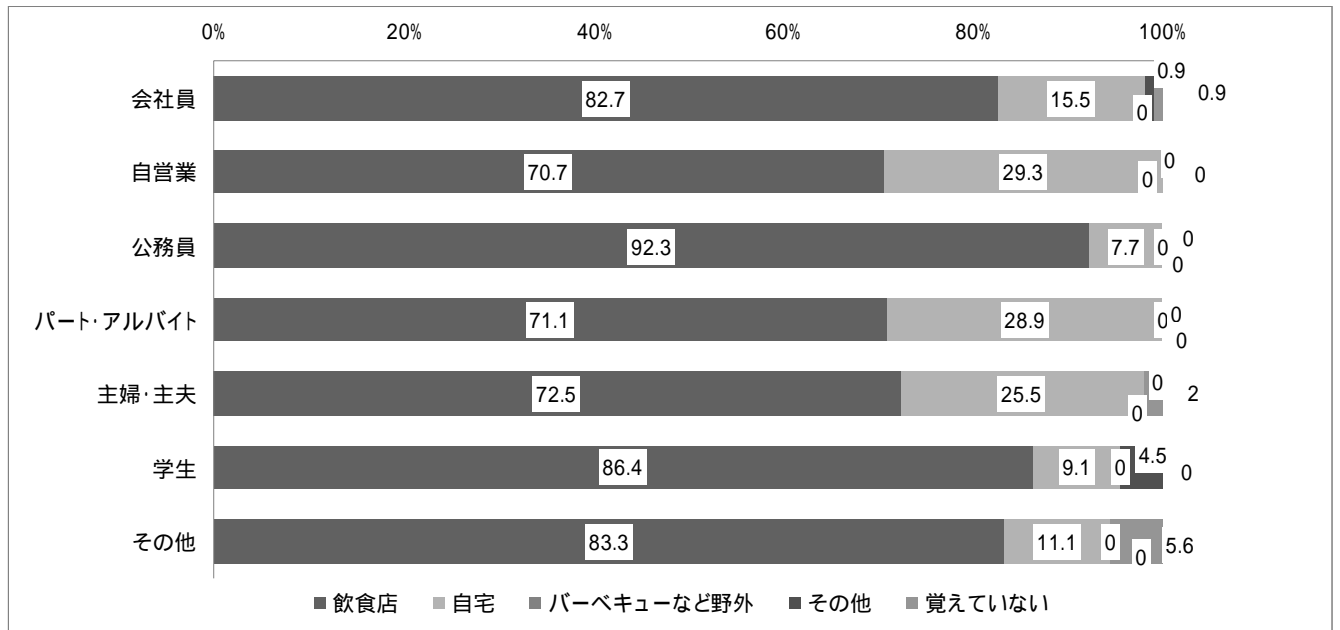


図 1.2.24 職業別、食べている場所 (n=403)

自宅で食べていると回答している人を男女別にみると、表が示す通り、男性が17.9%、女性が19.5%であり、男女の回答に大差はない。年代別にみると、50歳代（24.1%）と60歳代（34.8%）の回答が2割以上ある。年代男女別では、60歳代女性（40%）と50歳代男性（30.6%）と60歳代男性（30.8%）の回答が多い。

表 1.2.1 男女、年代、性年代別の食肉を生で食べている場所

		n	飲食店	自宅	バーベキュー など野外	その他	覚えていない
全体		403 100.0	321 79.7	75 18.6	0 0.0	3 0.7	4 1.0
性別	男性	234 100.0	187 79.9	42 17.9	0 0.0	3 1.3	2 0.9
	女性	169 100.0	134 79.3	33 19.5	0 0.0	0 0.0	2 1.2
年代	20代	105 100.0	89 84.8	15 14.3	0 0.0	1 1.0	0 0.0
	30代	118 100.0	101 85.6	17 14.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40代	76 100.0	62 81.6	13 17.1	0 0.0	1 1.3	0 0.0
	50代	58 100.0	43 74.1	14 24.1	0 0.0	0 0.0	1 1.7
	60代	46 100.0	26 56.5	16 34.8	0 0.0	1 2.2	3 6.5
	性年代	男性-20代	54 100.0	47 87.0	6 11.1	0 0.0	1 1.9
	男性-30代	72 100.0	62 86.1	10 13.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	男性-40代	46 100.0	38 82.6	7 15.2	0 0.0	1 2.2	0 0.0
	男性-50代	36 100.0	25 69.4	11 30.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	男性-60代	26 100.0	15 57.7	8 30.8	0 0.0	1 3.8	2 7.7
	女性-20代	51 100.0	42 82.4	9 17.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	女性-30代	46 100.0	39 84.8	7 15.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	女性-40代	30 100.0	24 80.0	6 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	女性-50代	22 100.0	18 81.8	3 13.6	0 0.0	0 0.0	1 4.5
	女性-60代	20 100.0	11 55.0	8 40.0	0 0.0	0 0.0	1 5.0

【食べたきっかけ】

食肉を生で食べたきっかけは、全体に「飲食店のメニューにあった」が 54.8%と最も多く、次いで、「一緒に食べていた人に勧められた」(15.4%)、「家族が食べていた」(13.2%)の回答が多い。

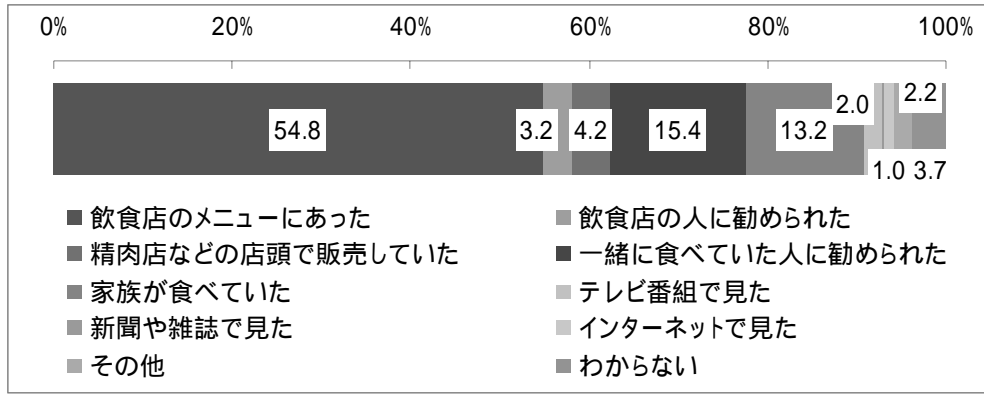


図 1.2.25 食肉を生で食べたきっかけ (n=403)

職業別には、「飲食店のメニューにあったから」の回答については、公務員の回答の割合が 76.9%と最も高い。「一緒に食べていた人に勧められたから」の回答は、学生 (22.7%) の回答が他の職業の人に比べて高い。「家族が食べていたから」の回答は、学生 (22.7%) と主婦・主夫 (21.6%) が他の職業の人より多く回答している。

表 1.2.2 職業別、食肉を生で食べたきっかけ (集計表%) n=403

	飲食店のメニューにあった	飲食店のの人に勧められた	精肉店などの店頭で販売していた	一緒に食べていた人に勧められた	家族が食べていた	テレビ番組で見た	新聞や雑誌で見た	インターネットで見たと	その他	わからない
会社員	54.1	4.1	4.1	16.4	11.8	0.9	0.5	1.4	2.7	4.1
自営業	43.9	4.9	7.3	17.1	14.6	9.8	0	0	0	2.4
公務員	76.9	7.7	7.7	7.7	0	0	0	0	0	0
パート・アルバイト	55.3	2.6	2.6	15.8	13.2	0	0	2.6	2.6	5.3
主婦・主夫	56.9	0	3.9	9.8	21.6	3.9	0	0	0	3.9
学生	54.5	0	0	22.7	22.7	0	0	0	0	0
その他	66.7	0	5.6	11.1	0	0	0	0	11.1	5.6

【裏メニューの注文の有無】

「この 3 ヶ月間で、あなたは、メニュー表にはない、食肉を生で食べる料理 (いわゆる裏メニュー) を飲食店で注文したことはありますか」という問いに対しては、「ない」という回答が 63.8%と最も高く、次いで「ほとんどない」が 15.9%である。他方、頼んだことがあるという回答、即ち「よくある」(4.7%)、「たまにある」(12.7%) の回答は、総計 17.4%であった。

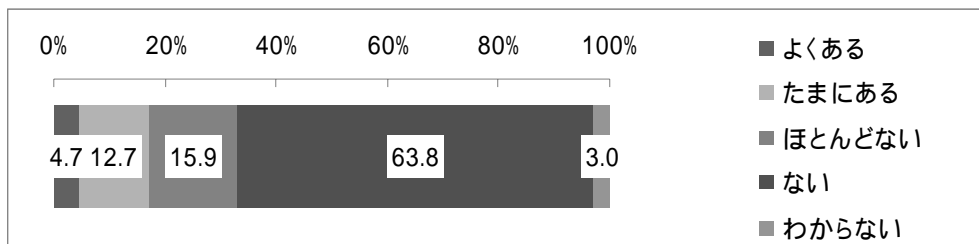


図 1.2.26 裏メニューの注文の有無 (n=403)

裏メニューを頼む人、頼まない人が食べている食肉の生食メニューについては、表を参照すると、裏メニューを注文する人は、豚肉以外の、鶏肉、牛肉、馬肉の生食メニューについて、全体の回答よりも高い割合で食べていると回答している。裏メニューの注文を「ほとんどない」「ない」と回答している人と比べると、裏メニューの注文が「よくある」「たまにある」という人の回答は、「レバー・砂肝など鶏の内臓肉の刺身」、「牛レバーの刺身」、「センマイ・ハツなどレバー以外の牛の内臓肉の刺身」など内臓肉の刺身に対して高い傾向を示している。

表 1.2.3 裏メニューを頼む人が食べている生食メニュー

		n	鶏肉の刺身	たどりわさ・鶏のた	鶏レバーの内臓・砂肝の刺身	牛レバーの刺身	牛肉のたたき	牛レバーの刺身	のど内臓肉の刺身	センマイ・ハツの刺身	馬肉の刺身	豚肉の刺身	豚レバーの刺身	その他	特に決まっていな
全体		403	66	114	94	219	143	95	38	133	3	14	10	40	
		100.0	16.4	28.3	23.3	54.3	35.5	23.6	9.4	33.0	0.7	3.5	2.5	9.9	
Q2S6	よくある	19	6	9	9	11	8	6	6	4	0	5	0	0	
		100.0	31.6	47.4	47.4	57.9	42.1	31.6	31.6	21.1	0.0	26.3	0.0	0.0	
	たまにある	51	18	20	21	28	19	17	8	22	2	2	2	3	
		100.0	35.3	39.2	41.2	54.9	37.3	33.3	15.7	43.1	3.9	3.9	3.9	5.9	
	ほとんどない	64	21	29	20	37	23	14	7	21	1	3	0	5	
	100.0	32.8	45.3	31.3	57.8	35.9	21.9	10.9	32.8	1.6	4.7	0.0	7.8		
ない	257	21	53	41	138	90	55	17	84	0	3	8	29		
	100.0	8.2	20.6	16.0	53.7	35.0	21.4	6.6	32.7	0.0	1.2	3.1	11.3		
わからない	12	0	3	3	5	3	3	0	2	0	1	0	3		
	100.0	0.0	25.0	25.0	41.7	25.0	25.0	0.0	16.7	0.0	8.3	0.0	25.0		

裏メニューを頼む人の生食メニューを注文する回数については、「よくある」と回答している人は、月に2・3回程度食べている回答の割合が42.1%と最も高い。裏メニューの注文が「たまにある」人は、月に1回程度食べていると回答する割合が51.0%と最も高く、週に1~2回程度の回答も13.7%ある。他方、裏メニューの注文は「ほとんどない」人であっても、週に1~2回程度食べている回答は12.5%ある。

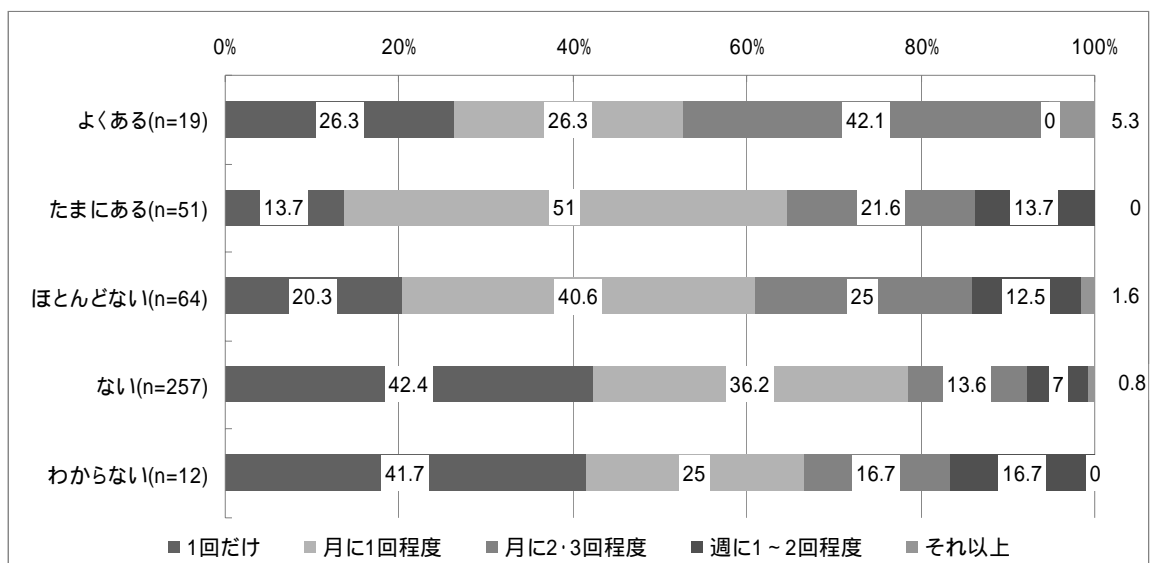


図 1.2.27 裏メニューを頼む人の注文頻度 (n=403)



また、「よくある」と回答した人が生食メニューを食べるお店の形態は、焼肉専門店との回答が 80.0%ある。

表 1.2.4 裏メニューの注文の有無別、生食メニューを食べる飲食店の形態

		n	居酒屋	焼肉専門店	焼き鳥専門店・串焼	その他	覚えていない
全体		321 100.0	95 29.6	179 55.8	30 9.3	16 5.0	1 0.3
Q2S6	よくある	15 100.0	1 6.7	12 80.0	2 13.3	0 0.0	0 0.0
	たまにある	42 100.0	14 33.3	19 45.2	8 19.0	1 2.4	0 0.0
	ほとんどない	54 100.0	19 35.2	27 50.0	7 13.0	0 0.0	1 1.9
	ない	202 100.0	58 28.7	117 57.9	12 5.9	15 7.4	0 0.0
	わからない	8 100.0	3 37.5	4 50.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0

#### 【体調不良】

食肉を生で食べて体調不良を起こしたことがあるかどうかについては、「ない」と回答した人が 85.1%、「ある」と回答した人は 7.2% (29 人) である。「わからない」と回答している人は 7.7% である。

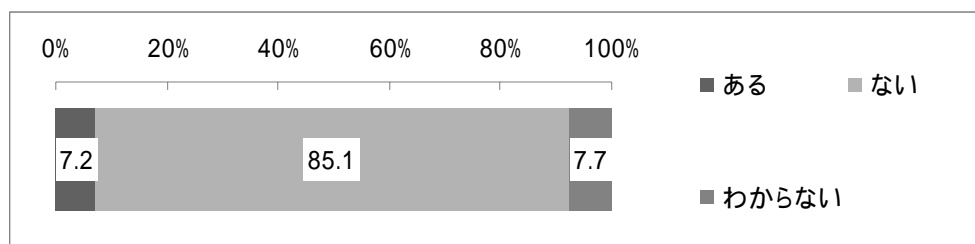


図 1.2.28 食肉を生で食べたことによる体調不良の有無 (n=403)

回数については、体調不良を起こした 29 名中 1 回が 18 名、2 回が 5 名、3 回が 3 名、4 回が 1 名、5 回が 2 名である。

また、表が示す通り、体調不良ありでは月に 2・3 回程度食べている人が一番多く<sup>4</sup>、体調不良なしでは月に 1 回程度が一番多く、体調不良ありとなしでは異なる傾向がある。

<sup>4</sup>体調不良ありの n が少ないので参考である。

表 1.2.5 体調不良の有無と生食の頻度との関係

	n	1 回 だ け	月 に 1 回 程 度	月 に 2 ・ 3 回 程 度	週 に 1 〜 2 回 程 度	そ れ 以 上
体調不良 のある	29 100.0	7 24.1	9 31.0	10 34.5	2 6.9	1 3.4
体調不良 ない	343 100.0	127 37.0	132 38.5	57 16.6	25 7.3	2 0.6

更に、これまでに生食が原因と考えられる体調不良を起こしたことがあると答えた29人については以下のことが判明した。全員直近3ヶ月の間に生食をしていた。その頻度については、月に2・3回程度が10名、月1回程度が9名、3ヶ月に1回が7名、週に1回以上が3名であった。また喫食場所について飲食店と答えた人は23名(居酒屋4・焼肉18・その他1)、自宅が5名、その他が1名であった。

体調不良の症状については、「腹痛」が75.9%と最も多く、次いで「下痢(水様便)」が65.5%と多い。

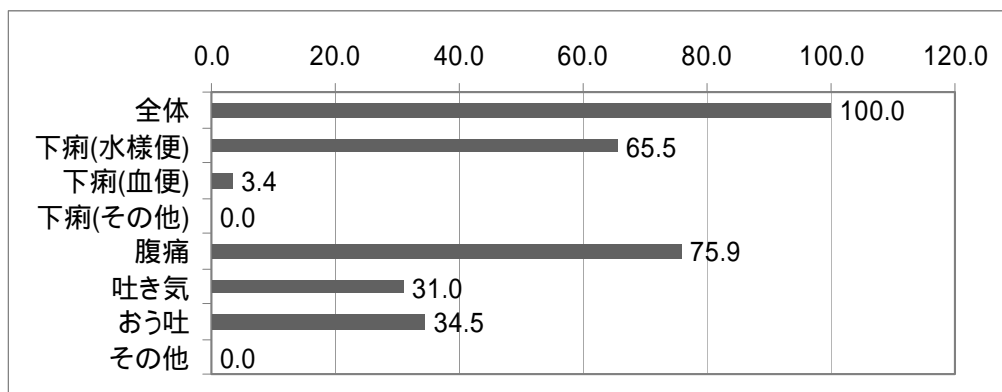


図 1.2.29 食肉を生で食べたことが原因と考えられる体調不良の症状 (n=29)

その時、医療機関へ受診したかどうかについては、「受診した」という回答は、29人中34.5%、「受診しなかった」という回答は、65.5%である。

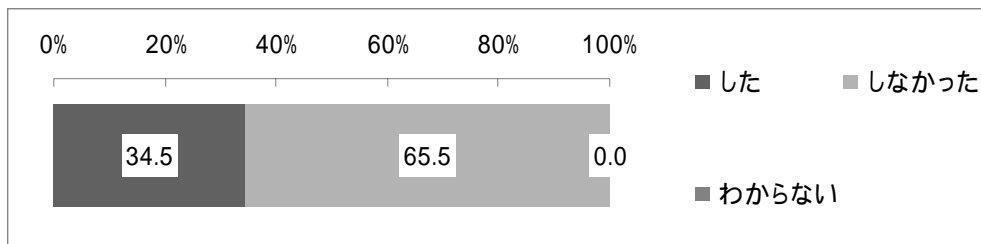


図 1.2.30 体調不良時の医療機関への受診の有無 (n=29)

保健所に連絡したかどうかについては、「連絡した」と回答している人は、29人中6.9%、「連絡しなかった」と回答している人は、93.1%である。なお、保健所に「連絡した」と回答している人は、全員医療機関へ受診していた。

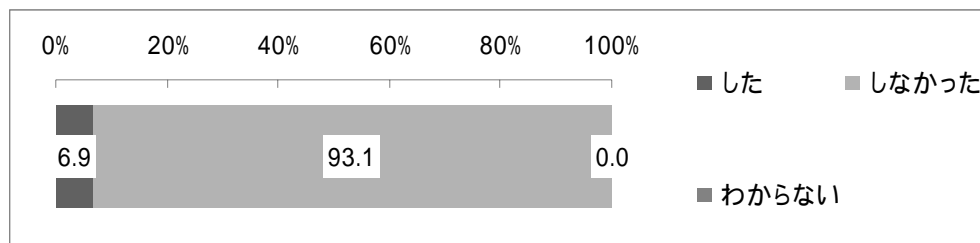


図 1.2.31 体調不良時に保健所に連絡したかどうか (n=29)

体調不良後も、食肉を生で食べたかどうかについては、100%食べたと回答している。

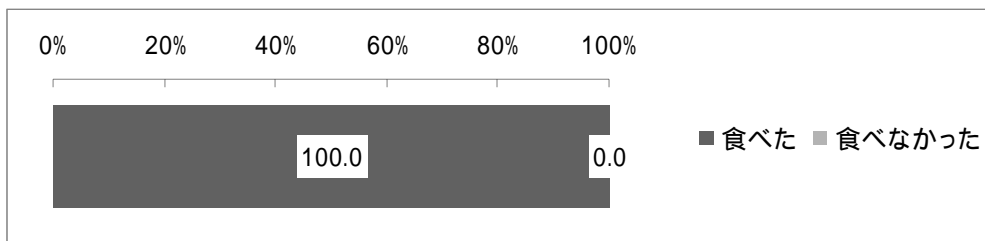


図 1.2.32 体調不良後にも、食肉を生で食べたかどうか (n=29)

#### 【食肉の生食の安全性に関する知識と情報源】

食肉を生で食べると、食中毒が起る可能性があることを知っていたかどうかについては、34.0%の人が「知っていた」と回答している。回答の割合が最も高いのは、「食肉の種類によっては知っていた」で、40.5%の回答がある。「知らなかった」という回答は23.6%である。

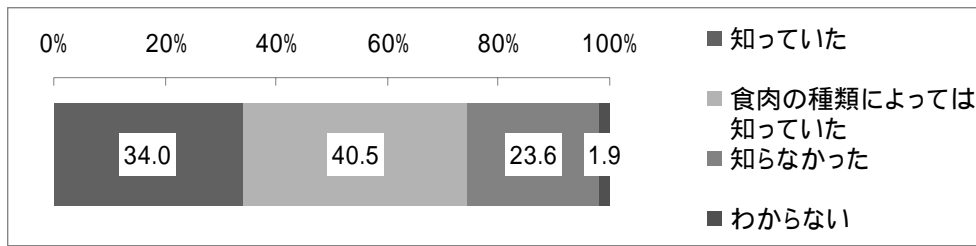


図 1.2.33 食肉を生で食べると食中毒が起る可能性があることの知識の有無 (n=1000)

職業別に、食肉を生で食べると食中毒になる可能性があることを知っていたかどうかをみると、学生は「知っていた」と回答した割合が高い。

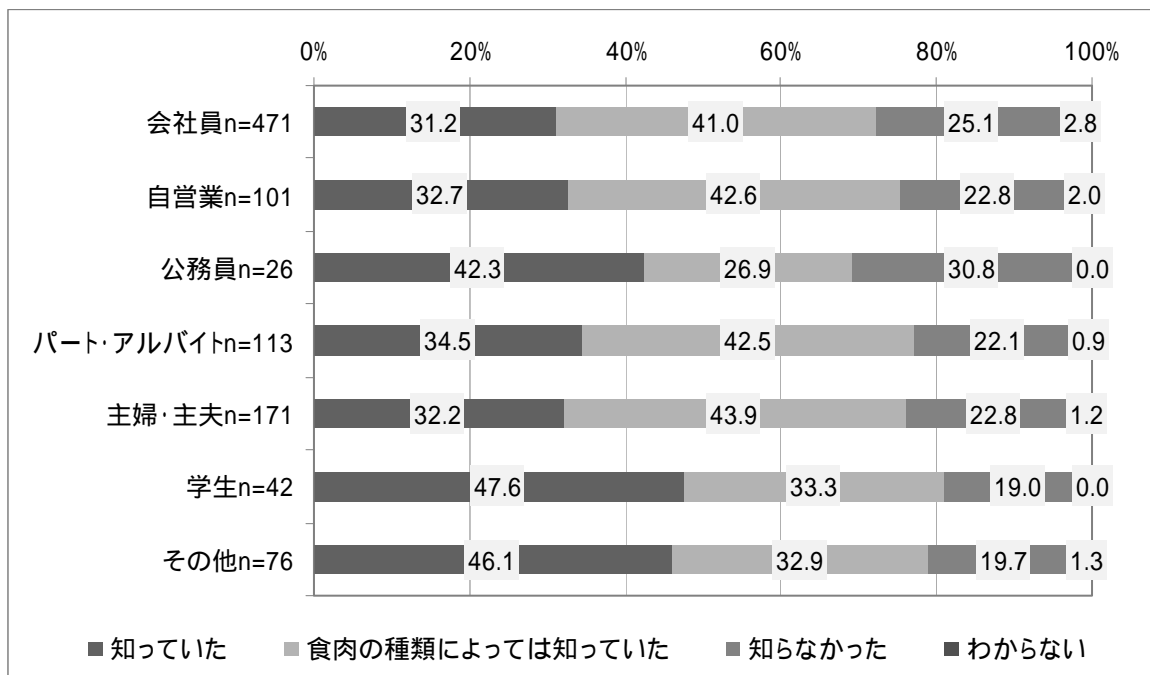


図 1.2.34 職業別、食肉を生で食べると食中毒が起る可能性があることの知識の有無 (n=1000)

更に、生食経験の有無と、生食による食中毒の可能性の知識との関係を見ると、生食経験の有無による知識の有無の差は、ほとんどみられない。

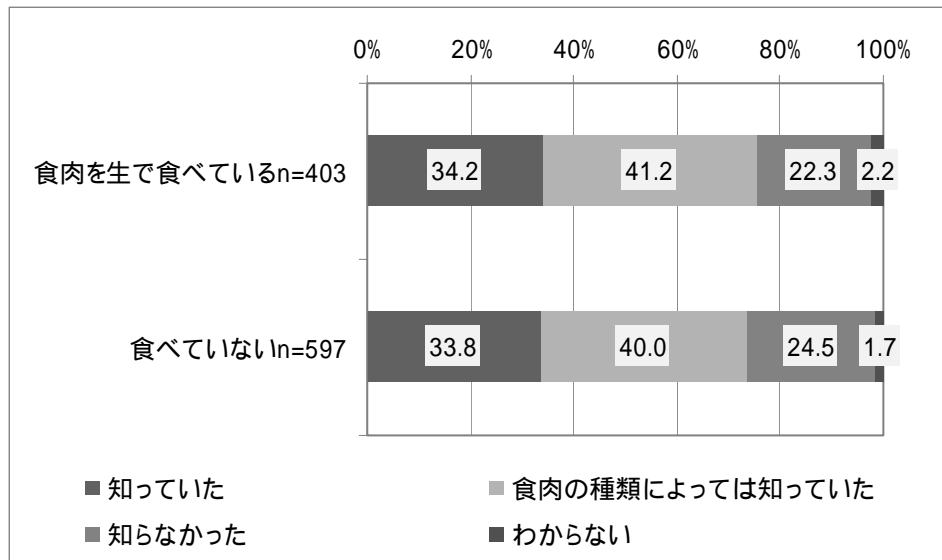


図 1.2.35 生食経験の有無と、生食による食中毒の可能性の知識との関係

食肉を生で食べると食中毒が起る可能性があることを知ったのは、「テレビ番組や新聞から知った」が 39.6%と最も多く、次いで「家族・友人から聞いた」が 30.1%と多い。

表 1.2.6 食肉を生で食べると食中毒が起る可能性があることの知識の情報源

	n	%
全体	745	100.0
<b>テレビ番組や新聞から知った</b>	<b>295</b>	<b>39.6</b>
<b>家族・友人から聞いた</b>	<b>224</b>	<b>30.1</b>
学校の先生から聞いた	30	4.0
保健所の講習会やパンフレット	29	3.9
一緒に食べに行った人から聞いた	28	3.8
インターネットで見た	28	3.8
飲食店の人から聞いた	18	2.4
精肉店の人から聞いた	10	1.3
その他	25	3.4
わからない	58	7.8

性別、年代別の知識の情報源をみると、性別には、女性の情報源はテレビ・新聞が男性よりも割合が高い。男性は家族・友人とテレビ・新聞が多い。

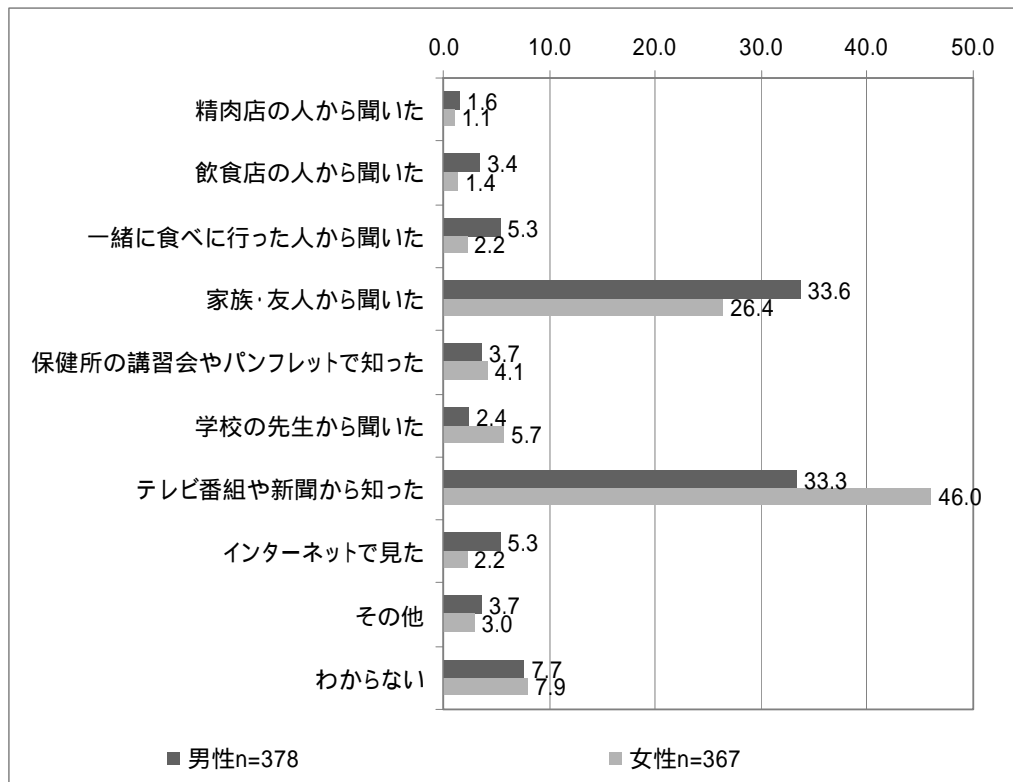


図 1.2.36 性別の食肉を生で食べると食中毒が起る可能性があることの知識の情報源

年代別には、年代が上がるとテレビ・新聞の割合が上がる。家族・友人は年代が低くなるほど高い割合となった。保健所の講習会・パンフレットは年代が上がると、割合が上がってくる。20代男性は家族・友人が多い。

表 1.2.7 年代・年代性別の食肉を生で食べると食中毒が起る可能性があることの知識の情報源

		n	精肉店の 人から聞 いた	飲食店の 人から聞 いた	一緒に食 べに行っ た人から 聞いた	家族・友 人から聞 いた	保健所の 講習会や ネット	学校の先 生から聞 いた	テレビ番 組や新聞 から知っ た	インタ ーネット で見た	その他	わか らない
全体		745 100.0	10 1.3	18 2.4	28 3.8	224 30.1	29 3.9	30 4.0	295 39.6	28 3.8	25 3.4	58 7.8
Q1.1- Option 年 齢世代別	20代	149 100.0	0 0.0	3 2.0	5 3.4	61 40.9	1 0.7	11 7.4	49 32.9	6 4.0	4 2.7	9 6.0
	30代	182 100.0	4 2.2	5 2.7	8 4.4	63 34.6	3 1.6	11 6.0	60 33.0	10 5.5	6 3.3	12 6.6
	40代	148 100.0	1 0.7	1 0.7	8 5.4	42 28.4	7 4.7	4 2.7	61 41.2	3 2.0	3 2.0	18 12.2
	50代	132 100.0	3 2.3	5 3.8	4 3.0	31 23.5	8 6.1	2 1.5	57 43.2	8 6.1	5 3.8	9 6.8
	60代	134 100.0	2 1.5	4 3.0	3 2.2	27 20.1	10 7.5	2 1.5	68 50.7	1 0.7	7 5.2	10 7.5
性年代	男性-20 代	83 100.0	0 0.0	3 3.6	4 4.8	39 47.0	0 0.0	1 1.2	24 28.9	6 7.2	2 2.4	4 4.8
	男性-30 代	93 100.0	3 3.2	2 2.2	7 7.5	29 31.2	3 3.2	3 3.2	28 30.1	4 4.3	5 5.4	9 9.7
	男性-40 代	74 100.0	0 0.0	1 1.4	5 6.8	24 32.4	2 2.7	2 2.7	26 35.1	3 4.1	0 0.0	11 14.9
	男性-50 代	68 100.0	1 1.5	3 4.4	3 4.4	22 32.4	5 7.4	1 1.5	23 33.8	6 8.8	3 4.4	1 1.5
	男性-60 代	60 100.0	2 3.3	4 6.7	1 1.7	13 21.7	4 6.7	2 3.3	25 41.7	1 1.7	4 6.7	4 6.7
	女性-20 代	66 100.0	0 0.0	0 0.0	1 1.5	22 33.3	1 1.5	10 15.2	25 37.9	0 0.0	2 3.0	5 7.6
	女性-30 代	89 100.0	1 1.1	3 3.4	1 1.1	34 38.2	0 0.0	8 9.0	32 36.0	6 6.7	1 1.1	3 3.4
	女性-40 代	74 100.0	1 1.4	0 0.0	3 4.1	18 24.3	5 6.8	2 2.7	35 47.3	0 0.0	3 4.1	7 9.5
	女性-50 代	64 100.0	2 3.1	2 3.1	1 1.6	9 14.1	3 4.7	1 1.6	34 53.1	2 3.1	2 3.1	8 12.5
	女性-60 代	74 100.0	0 0.0	0 0.0	2 2.7	14 18.9	6 8.1	0 0.0	43 58.1	0 0.0	3 4.1	6 8.1

次に職業別にみると、主婦・主夫はテレビ・新聞の割合が他よりも高く、学生は家族・友人の割合が他よりも高い傾向にある。

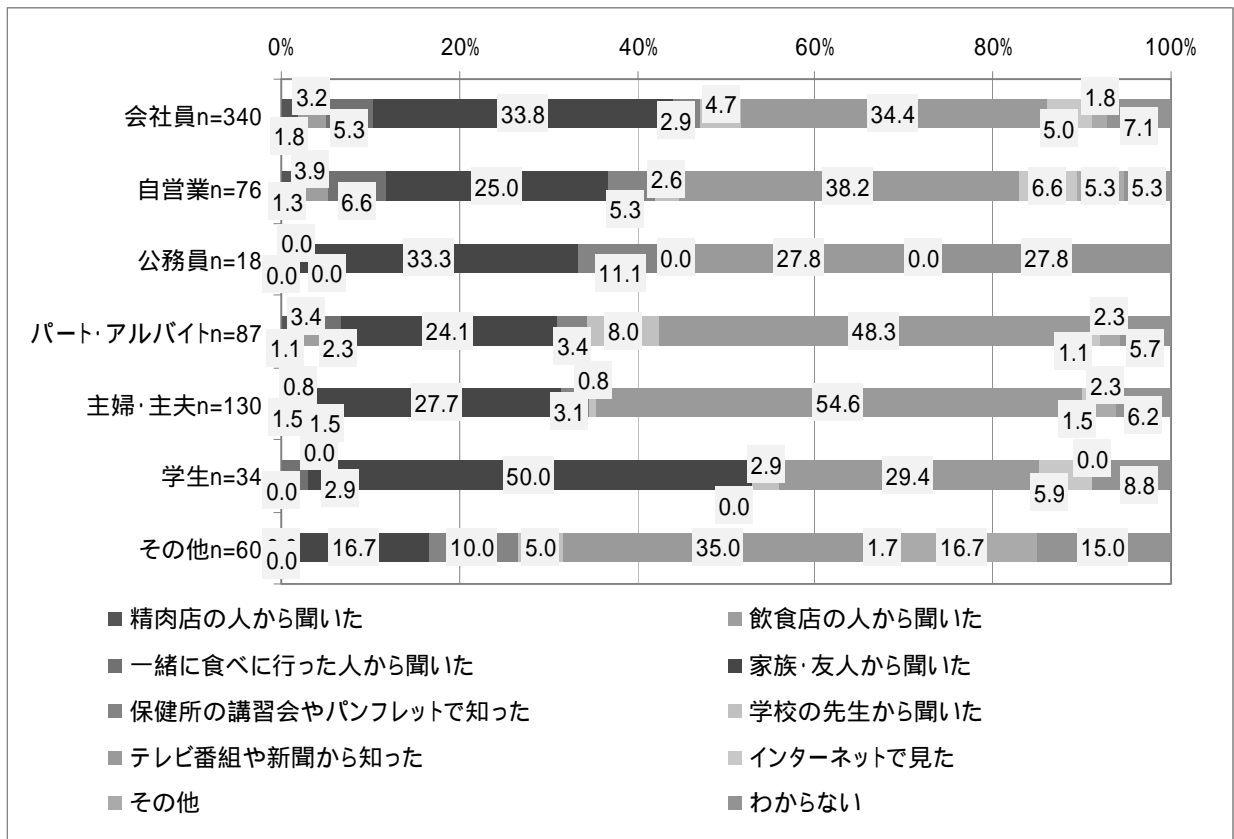


図 1.2.37 職業別の食肉を生で食べると食中毒が起る可能性があることの知識の情報源 (n=745)

また、子どもがいる世帯の情報源として、保健所の講習会・パンフレットは少ない。

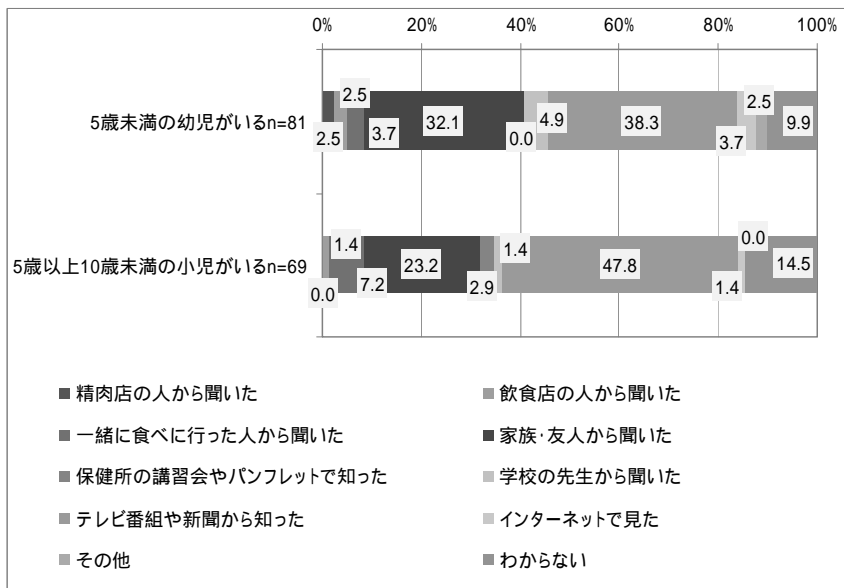


図 1.2.38 子どもがいる世帯の情報源



食中毒になることを、人から注意を受けたことがあるかどうかについては、「ある」と回答した人が 14.5%、「食肉の種類によってある」と回答した人が 30.7%、「ない」という回答が最も多く 50.2%である。

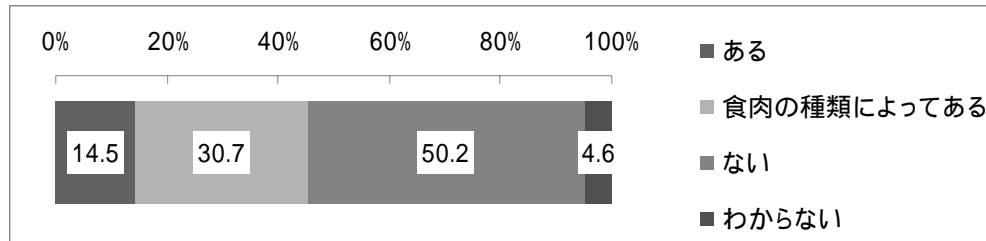


図 1.2.39 食肉を生で食べると食中毒になることを、人から注意されたことの有無 (n=1000)

年代別には、60代は「ない」の割合が他の年代よりも高い。20代男性は「ある」、「食肉の種類によってある」の割合が他の年代よりも高い傾向にある。

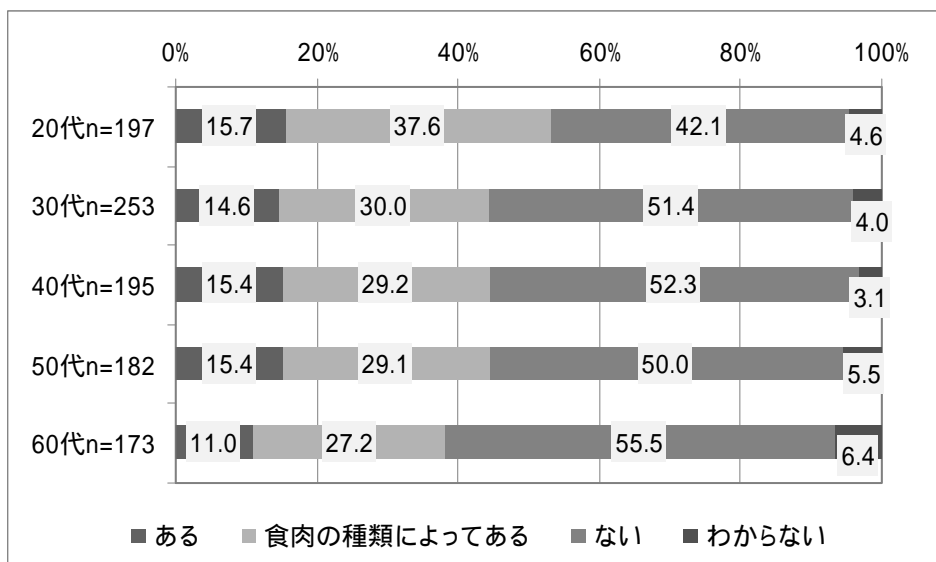


図 1.2.40 年代別、食肉を生で食べると食中毒になることを、人から注意されたことの有無 (n=1000)

職業別には、学生は「ある」の割合が他の年代よりも高く、「食肉の種類によってある」が全体の割合よりも高い。

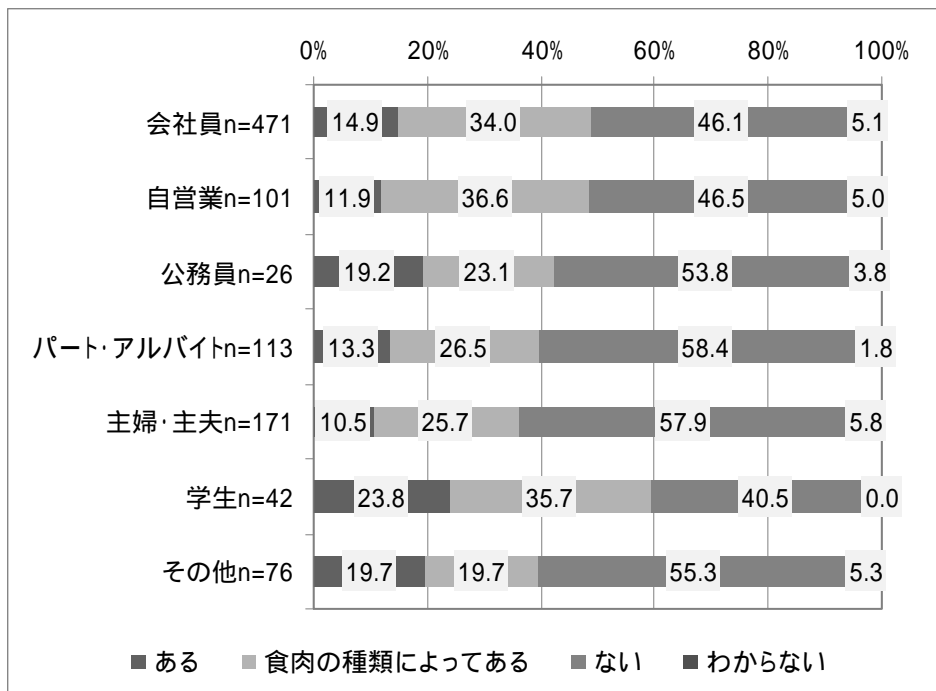


図 1.2.41 職業別、食肉を生で食べると食中毒になることを、人から注意されたことの有無 (n=1000)

子どもがいるかいないかによって、食肉を生で食べると食中毒になることを、人から注意されたことがあるかについては、子どもがいる世帯は「ない」の割合が、子どもがいない世帯よりも高い。

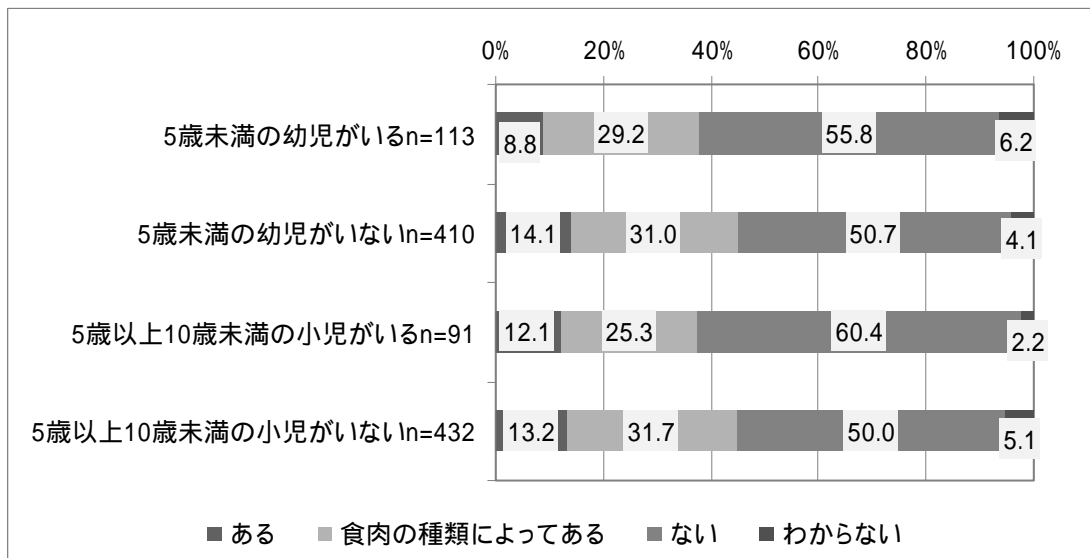


図 1.2.42 子どもの有無と食肉を生で食べると食中毒になることを人から注意されたことがあるかないかのクロス結果

誰から注意されたのかという、「家族・友人」が最も多く 68.8%である。次いで「一緒に食べに行った人」で 14.8%の回答がある。飲食店の人(7.1%)や精肉店の人(2.2%)から注意を受けたという回答は少ない。

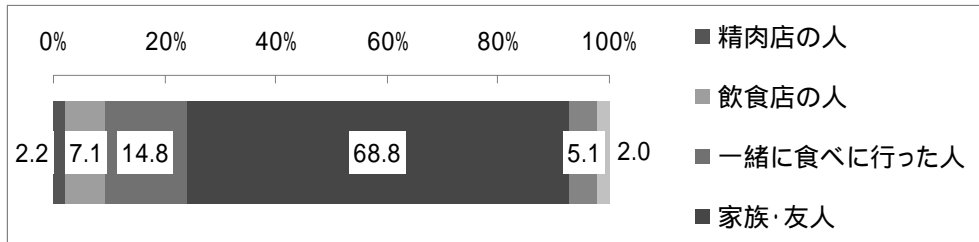


図 1.2.43 食中毒になる可能性のあることを注意した人 (n=452)

年代別には、20代は家族・友人の割合が他の年代よりも高い。60代は一緒に食べに行った人の割合が他の年代よりも高い。

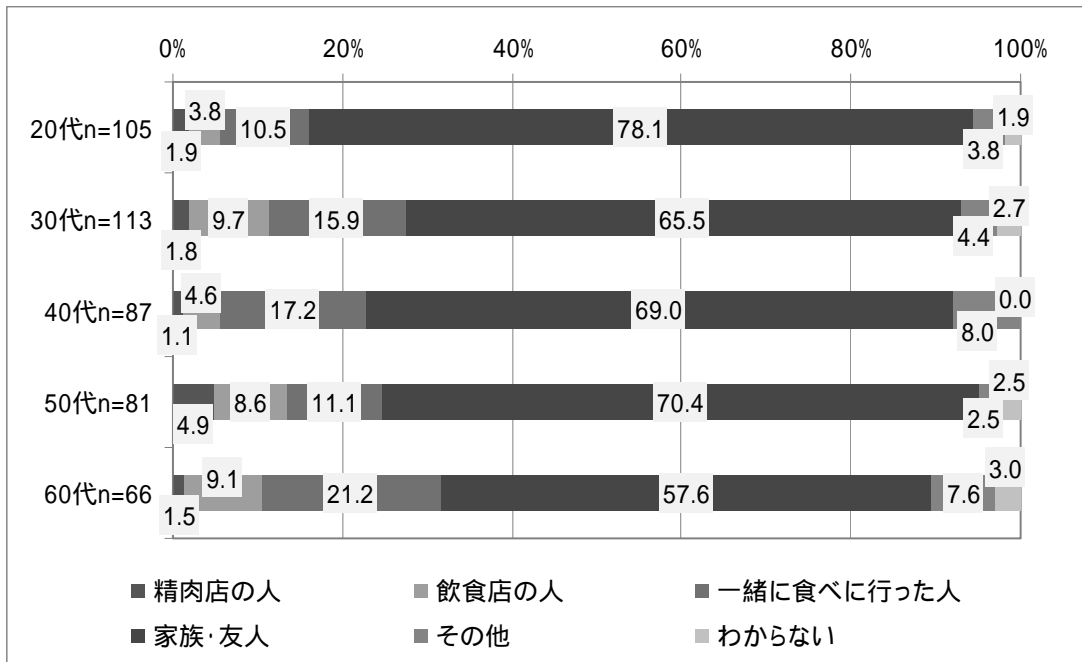


図 1.2.44 年代別、食中毒になる可能性のあることを注意した人に関する回答

職業別にみると、学生は他に比べ家族・友人が多く、一緒に行った人が少ない。

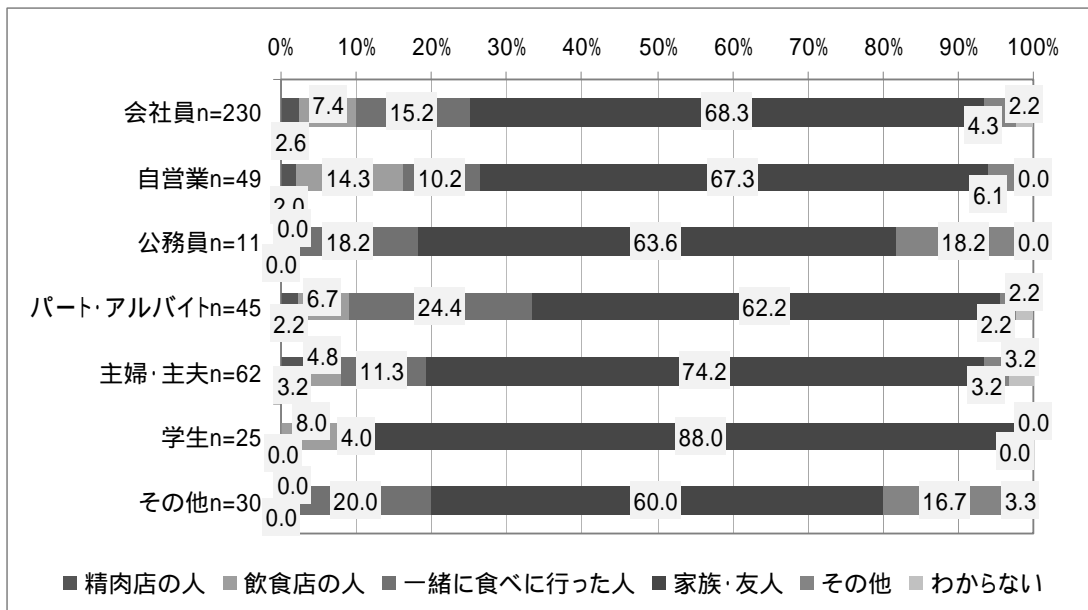


図 1.2.45 職業別、食中毒になる可能性のあることを注意した人に関する回答

本調査では、更に食肉を生で食べることによる食中毒に関する専門知識を知っているかどうかも尋ねている。具体的には、「1.流通する鶏肉の食中毒菌の汚染率は60%以上である」、「2.食肉の生食による食中毒は、鮮度に係わらず発生することがある」、「3.平成19年に都内で発生した食中毒の4件に1件は、食肉の生食が原因と考えられている」の3つに関して尋ねた。「2.食肉の生食による食中毒は、鮮度に係わらず発生することがある」については、12.6%の人がよく知っていたと答えており、37.8%の人が聞いたことはあるが、詳しくは知らないと回答している。他方、「1.流通する鶏肉の食中毒菌の汚染率は60%以上である」(66.9%)と「3.平成19年に都内で発生した食中毒の4件に1件は、食肉の生食が原因と考えられている」(76.3%)は、初めて聞いたと回答する人が多い。

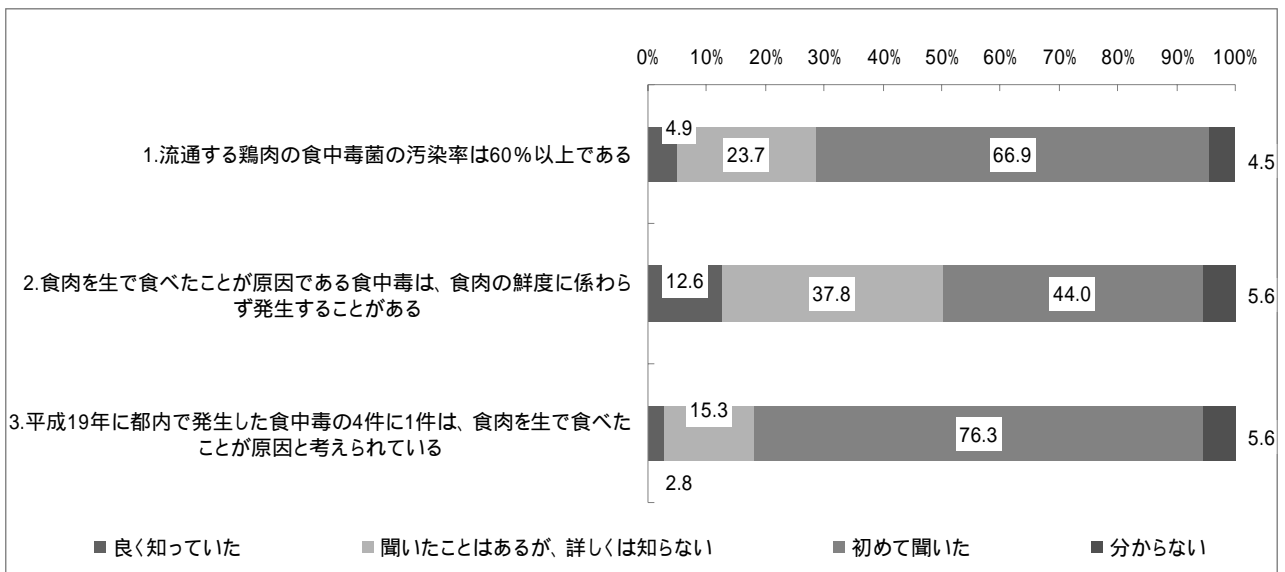


図 1.2.46 食肉を生で食べることが原因の食中毒に関する専門的知識の有無 (n=1000)

専門的知識について、年代や職業別の回答についてみると、まず、「1.流通する鶏肉の食中毒菌の汚染率は60%以上である」については、年代別には60代は「よく知っていた」の割合が他の年代よりも高い。

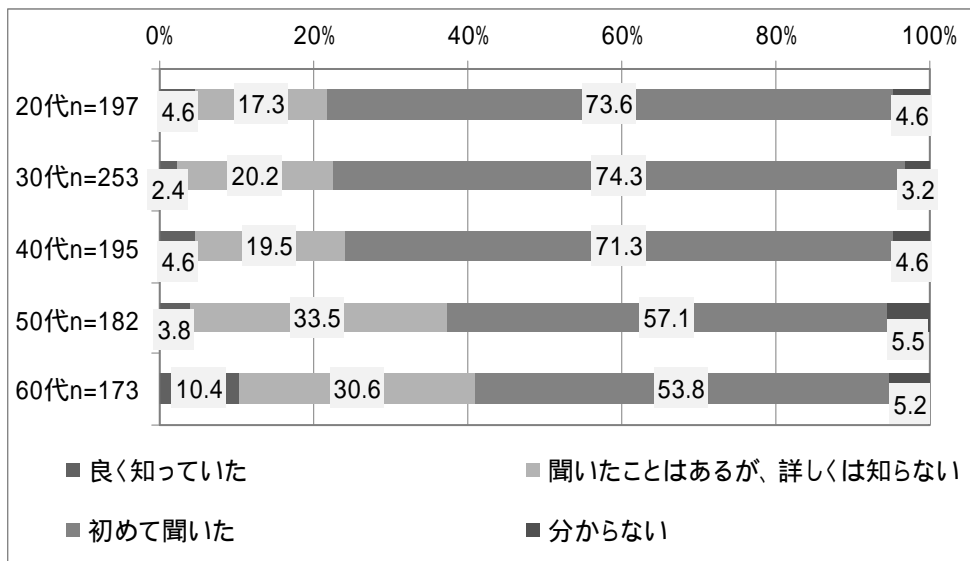


図 1.2.47 年代別、「1.流通する鶏肉の食中毒菌の汚染率は60%以上である」知識の有無の回答

職業別には、学生は「初めて聞いた」の割合が他よりも高い。

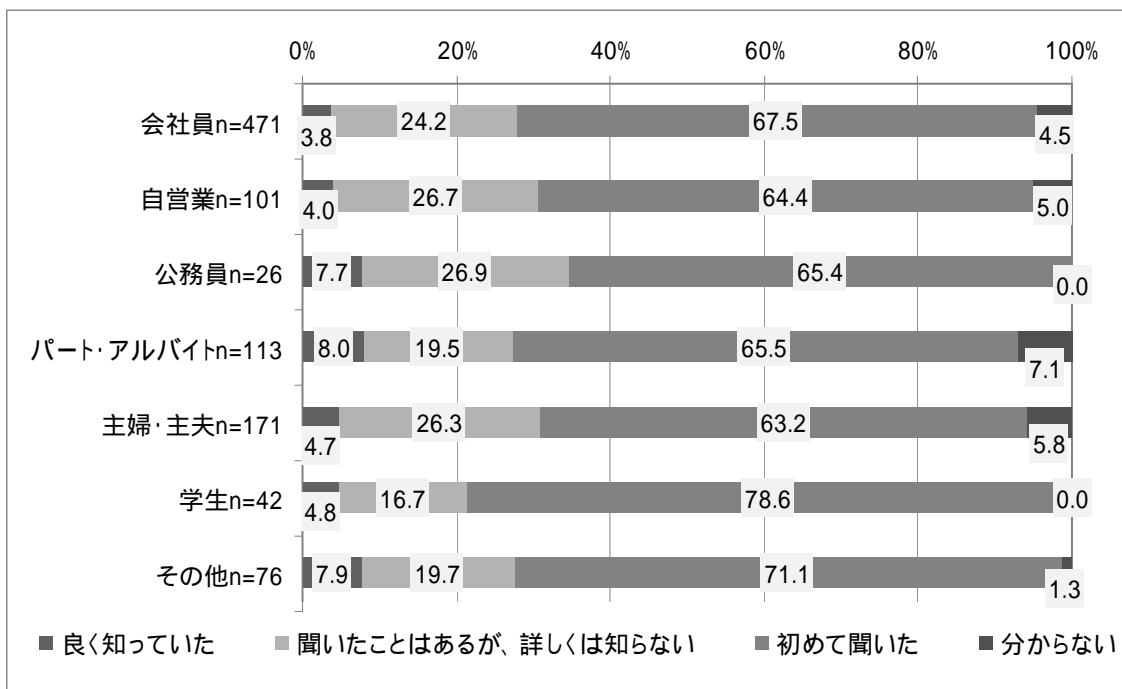


図 1.2.48 職業別、「1.流通する鶏肉の食中毒菌の汚染率は60%以上である」知識の有無の回答

次に「2.食肉の生食による食中毒は、鮮度に係わらず発生することがある」については、年代別には、60代は「よく知っていた」、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」の割合が他の年代よりも高い。

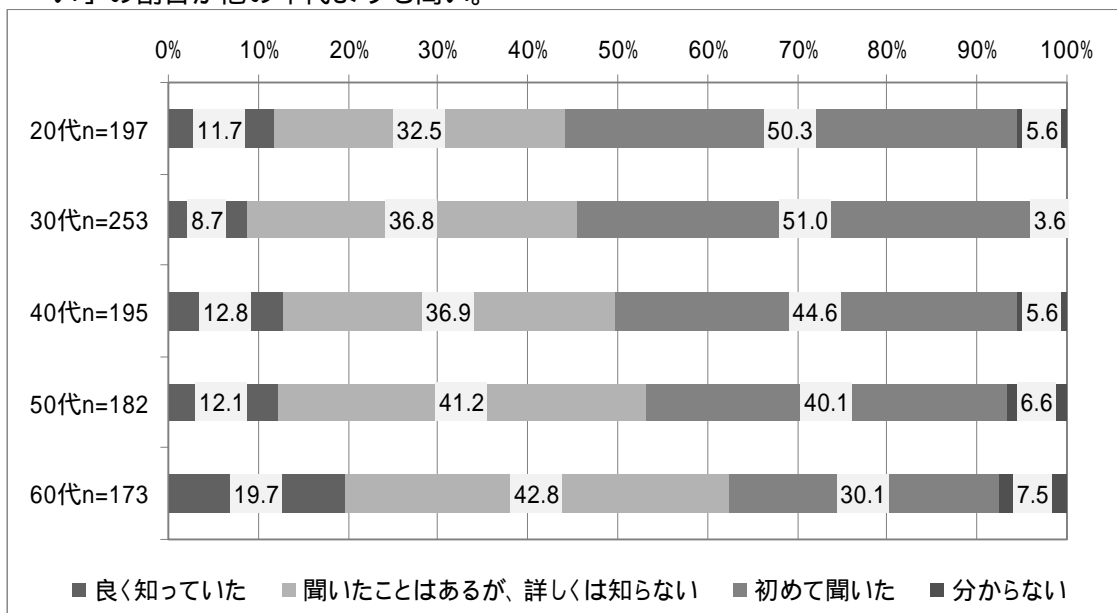


図 1.2.49 年代別、「2.食肉の生食による食中毒は、鮮度に係わらず発生することがある」知識の有無の回答

職業別には、公務員と学生は「初めて聞いた」の割合が他よりも高い。

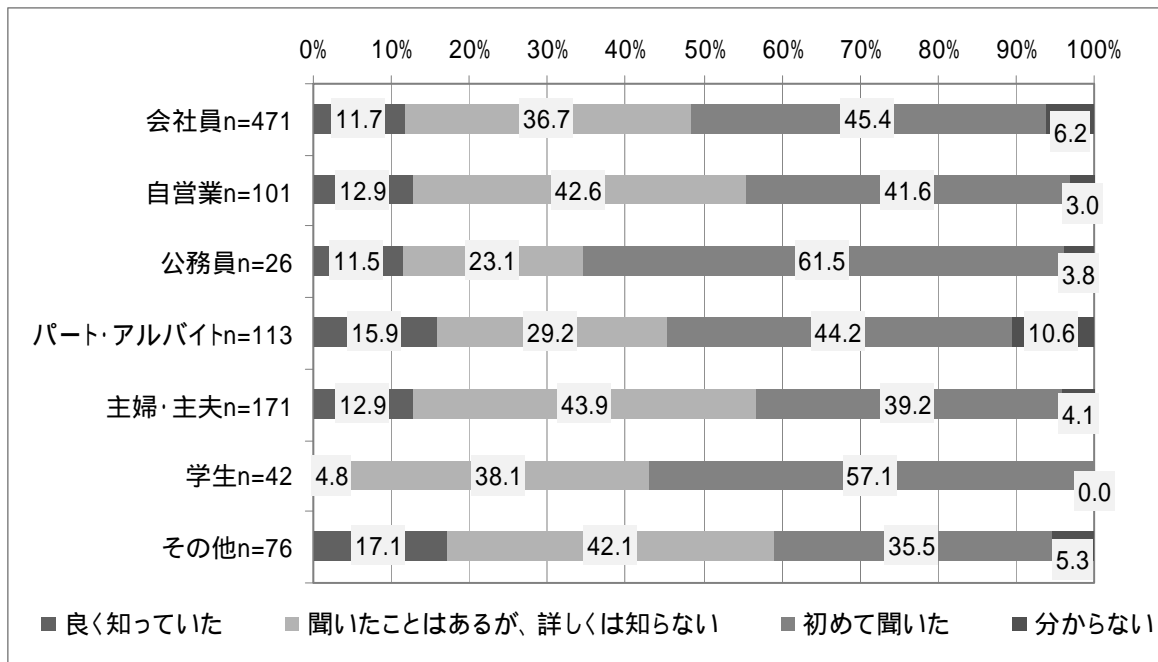


図 1.2.50 職業別、「2.食肉の生食による食中毒は、鮮度に係わらず発生することがある」知識の有無の回答

更に、10歳未満の子どもの有無でみると、子どもがいる世帯で「初めて聞いた」が、子どもがいない世帯よりも多い。

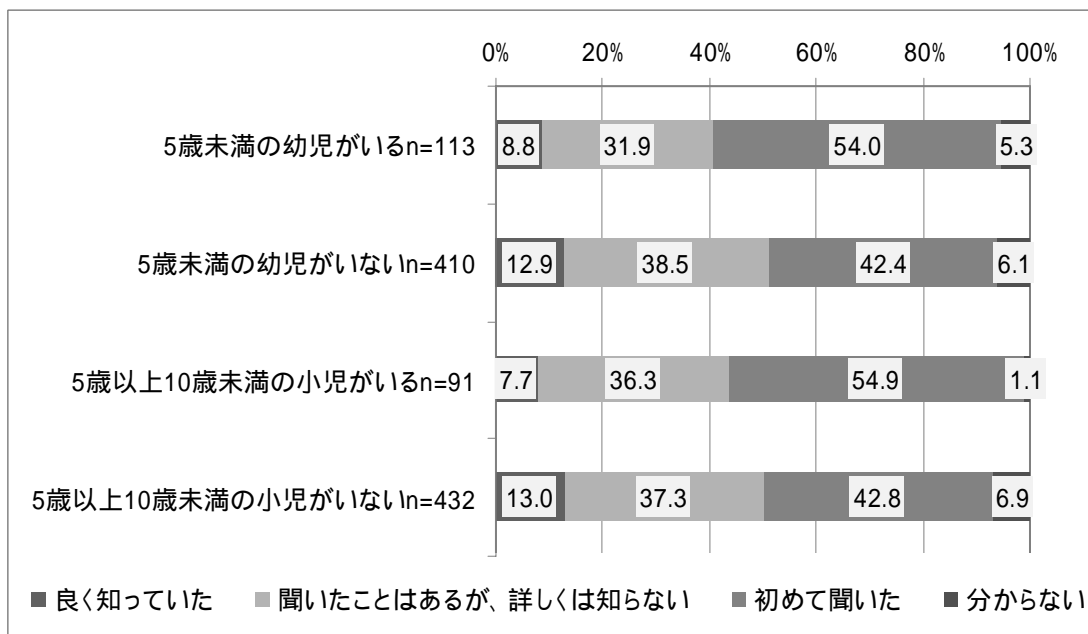


図 1.2.51 子どもの有無別、「2.食肉の生食による食中毒は、鮮度に係わらず発生することがある」知識の有無の回答

専門知識「3.平成19年に都内で発生した食中毒の4件に1件は、食肉の生食が原因と考えられている」については、年代別では、20代、30代で「初めて聞いた」の割合が全体よりも高く、60代で低い。

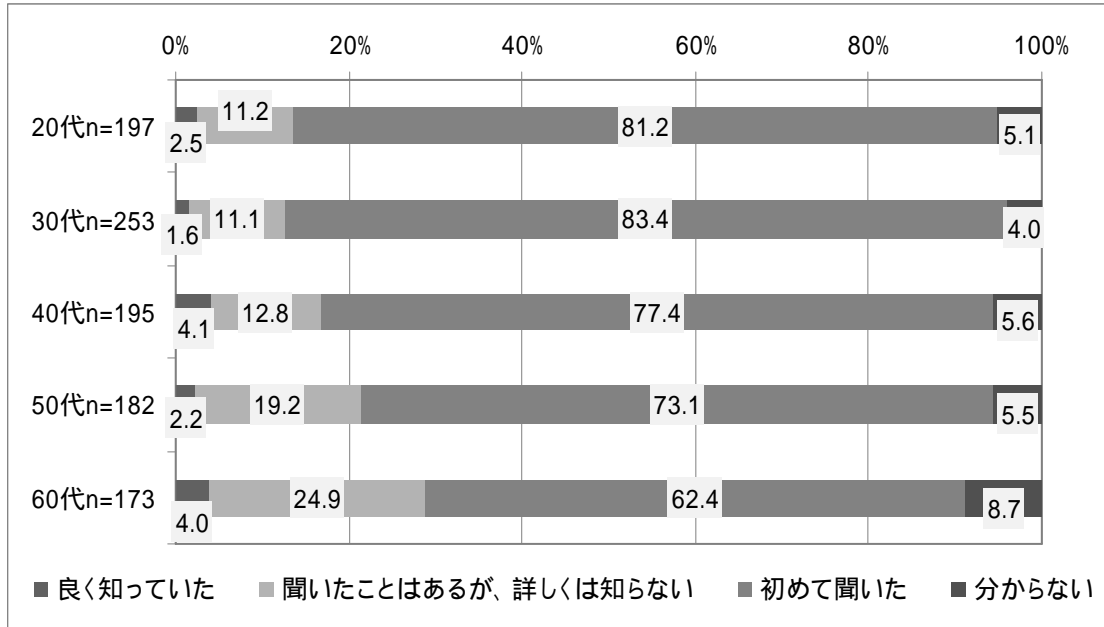


図 1.2.52 年代別、「3.平成19年に都内で発生した食中毒の4件に1件は、食肉の生食が原因と考えられている」知識の有無の回答

職業別には、学生は「初めて聞いた」の割合が他よりも高い。

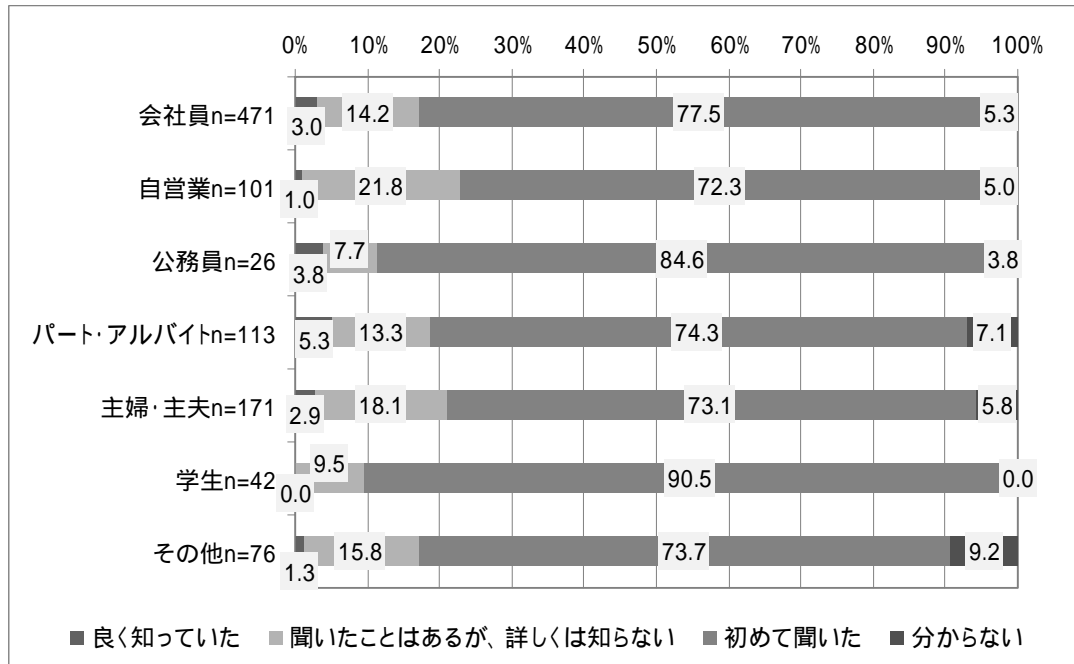


図 1.2.53 職業別、「3.平成19年に都内で発生した食中毒の4件に1件は、食肉の生食が原因と考えられている」知識の有無の回答



【知識と食行動】

食肉を生で食べると食中毒になる可能性があることが分かった上で、今後、食肉を生で食べるかどうかについて尋ねた。その結果、「場合によっては食べる」という回答が49.3%と最も多く、「食べる」回答と合計すると67%になる。他方、「食べない」と回答している人は3割存在する。

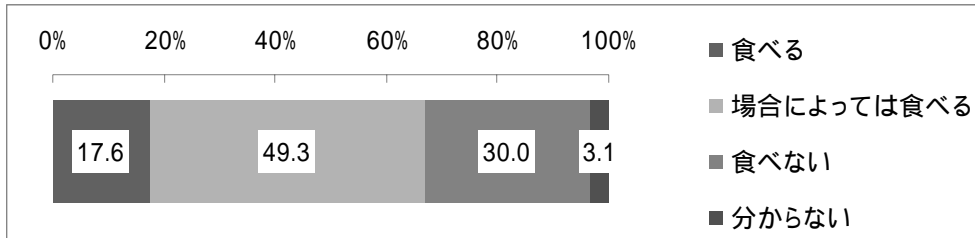


図 1.2.54 食肉を生で食べることのリスクを知ったうえで、今後食肉の生食の有無 (n=1000)

更に、知識を得た上で、食肉を生で食べるかどうかについて、この3ヶ月以内に食肉を生で食べた人、食べなかった人で比較すると、食べた人の方が食べなかった人よりも、今後も食べると回答している割合が高い。3ヶ月以内に食肉を生で「食べた」と回答した人の中で、今後の食行動を変えて食べないとした人が7.2%いた。また、3ヶ月以内で「食べていない」と回答した人の中に、今後「食べる」と回答した人が46.4%いたのは、3ヶ月以内では食べていないがそれ以前に食肉を生で食べていたためではないかと考えられる。

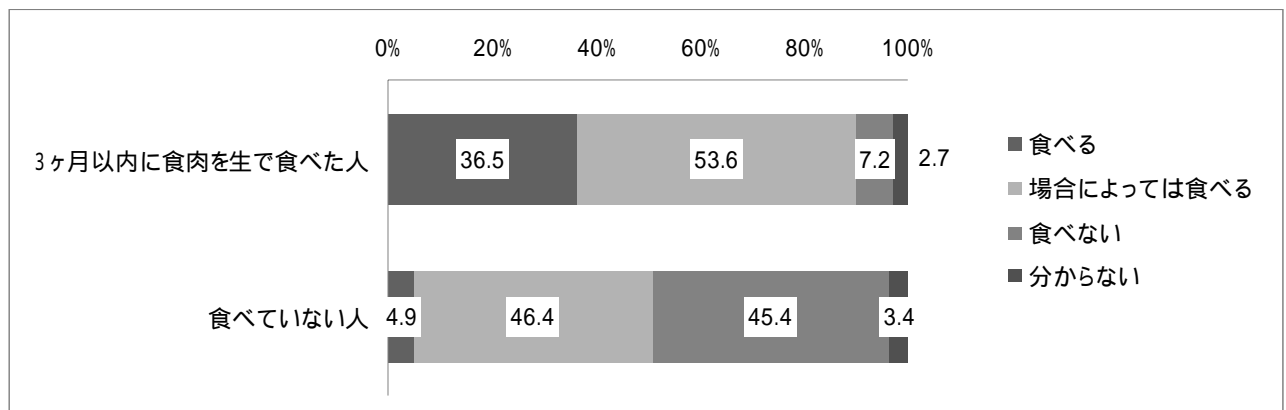


図 1.2.55 食肉の生食の有無による、今後の食肉の生食行動 (n=1000)

体調不良の有無で、今後の食行動が変わるかをみると、体調不良あり29名のうち今後食べないとしたのは1名(3.4%)だけであった。

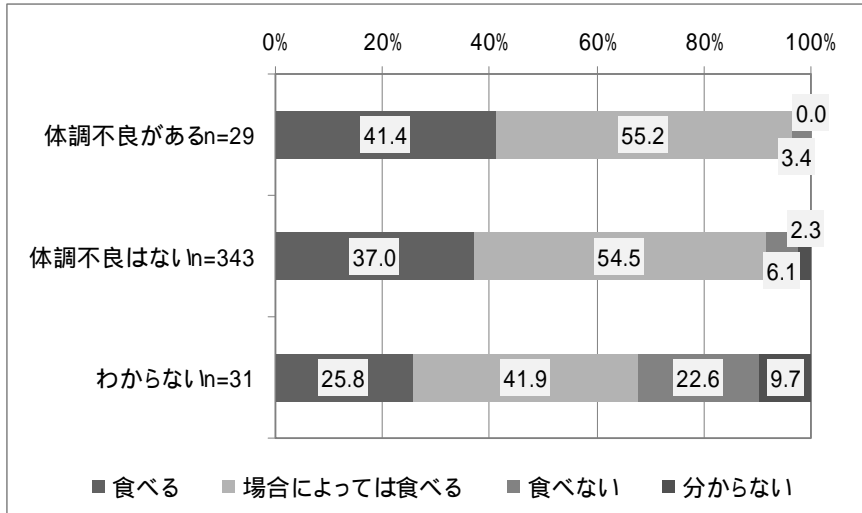


図 1.2.56 体調不良の有無による、今後の食肉の生食行動

年代別には、若い年代ほど「食べる」、「場合によっては食べる」の割合が高い。

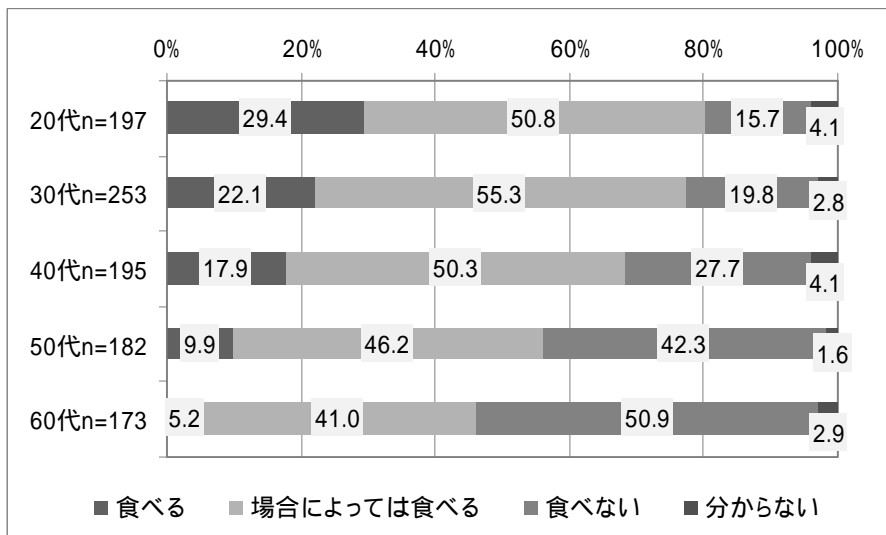


図 1.2.57 年代別、今後の食肉の生食行動

今後、家族や友人に、食中毒になる可能性があることを伝えようと思うかどうかについては、「思う」が 27.9%、「どちらかといえば思う」が 49.1%であり、家族や友人には食肉を生で食べることのリスクを伝えると回答した人は 77%にのぼる。

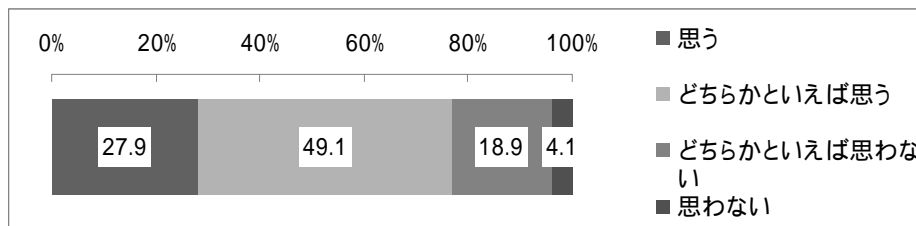


図 1.2.58 今後、家族や友人に、食中毒になる可能性があることを伝える意思 (n=1000)

体調不良のある、ないで、リスクを伝えるかどうかに差があるかをみると、体調不良ありのほうがリスクを伝えようと思う割合が高かった。

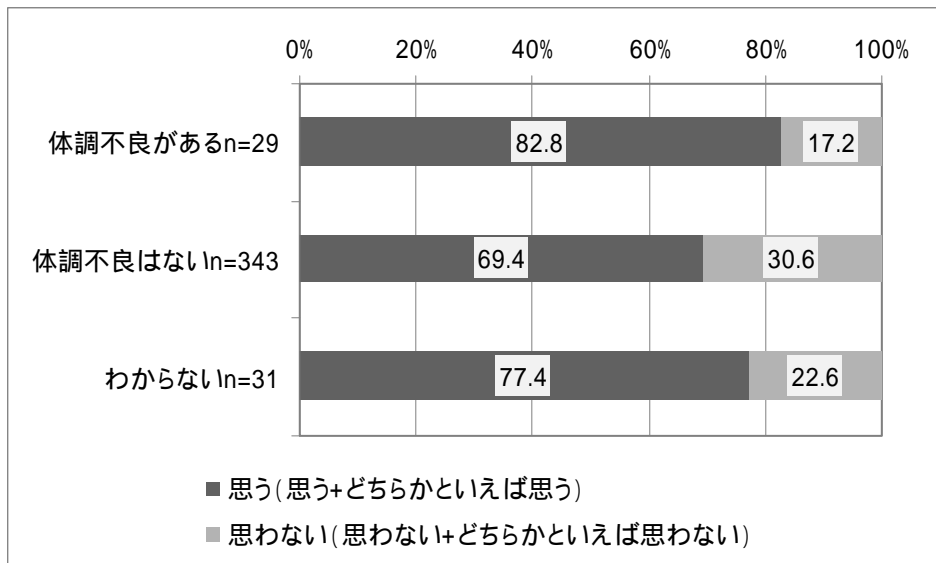


図 1.2.59 体調不良の有無による、今後リスクを伝えるかどうか意思

年代別には、60代で「思う」とした割合が他の年代よりも高かった。

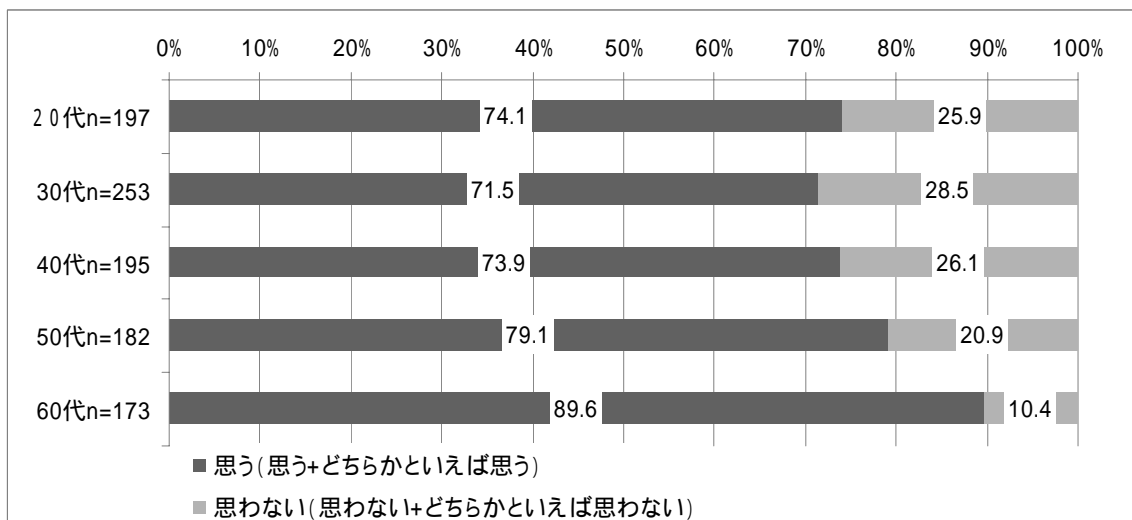


図 1.2.60 年代別、今後リスクを伝えるかどうか意志

更に、子ども・高齢者の有無によって、今後食肉を生で食べることのリスクを伝えるかどうかの意思に差がでるかを見たが、子ども・高齢者がいる世帯といない世帯で、差はないことが分かった。

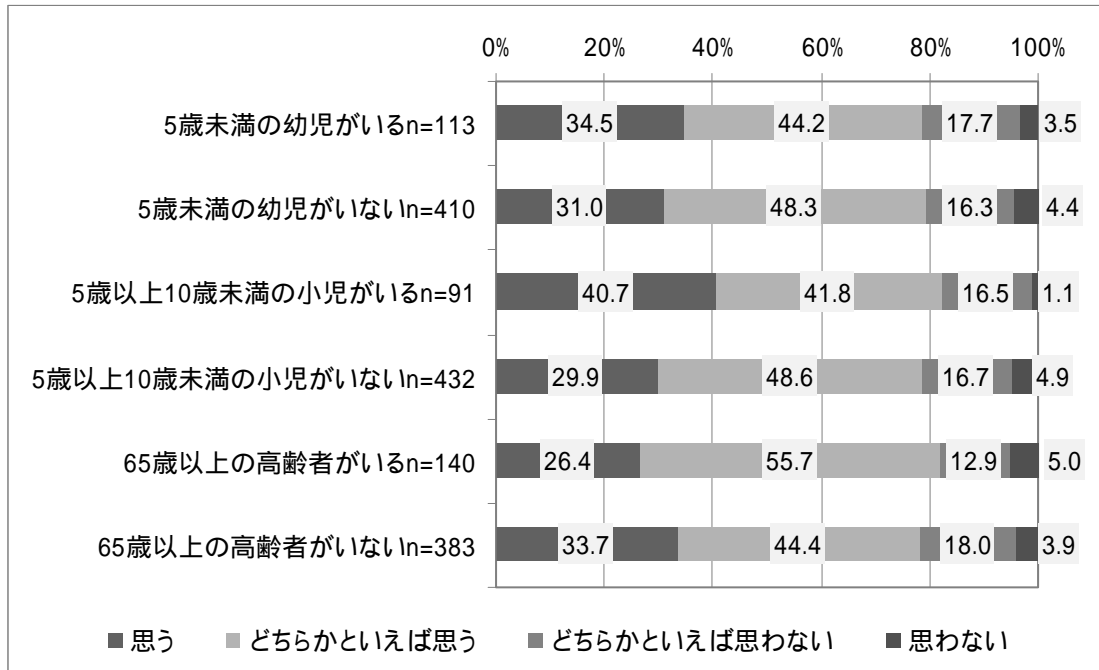


図 1.2.61 子ども高齢者の有無による、今後リスクを伝えるかの意思

今後食肉を生で食べるかどうかで、今後リスクを伝えようと思うかどうかの回答をクロス集計した。今後食べないという人では 89.0%の人が周囲にリスクを伝えると回答し、今後食べるという人でも 71.9%の人が周囲にリスクを伝えると回答している。

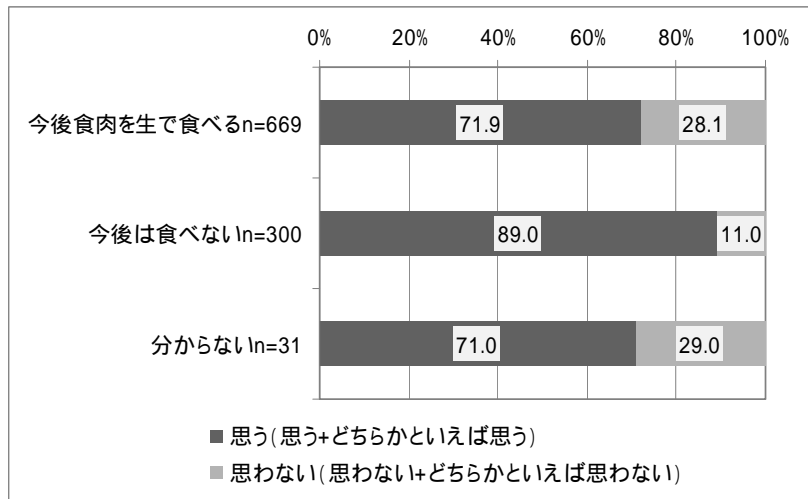


図 1.2.62 今後食肉を生で食べるかどうかの意思と、リスクを伝えるかどうかの意思との関係

【健康に対する危険の認知】

9つの項目について、消費者に、自分の健康にとって、どの程度危険であるかを尋ねた。その結果、消費者が危険であると思う程度の高い傾向にあるのは、「4.BSE」、「1.残留農薬」、「2.残留抗生物質」であり、危険と思う程度の低いのは、「7.魚介類の刺身」、「9.キノコや野草」、次いで「8.食肉の刺身」である。「8.食肉の刺身」は、「5.賞味期限切れの食品」よりも危険と思う程度は低い。

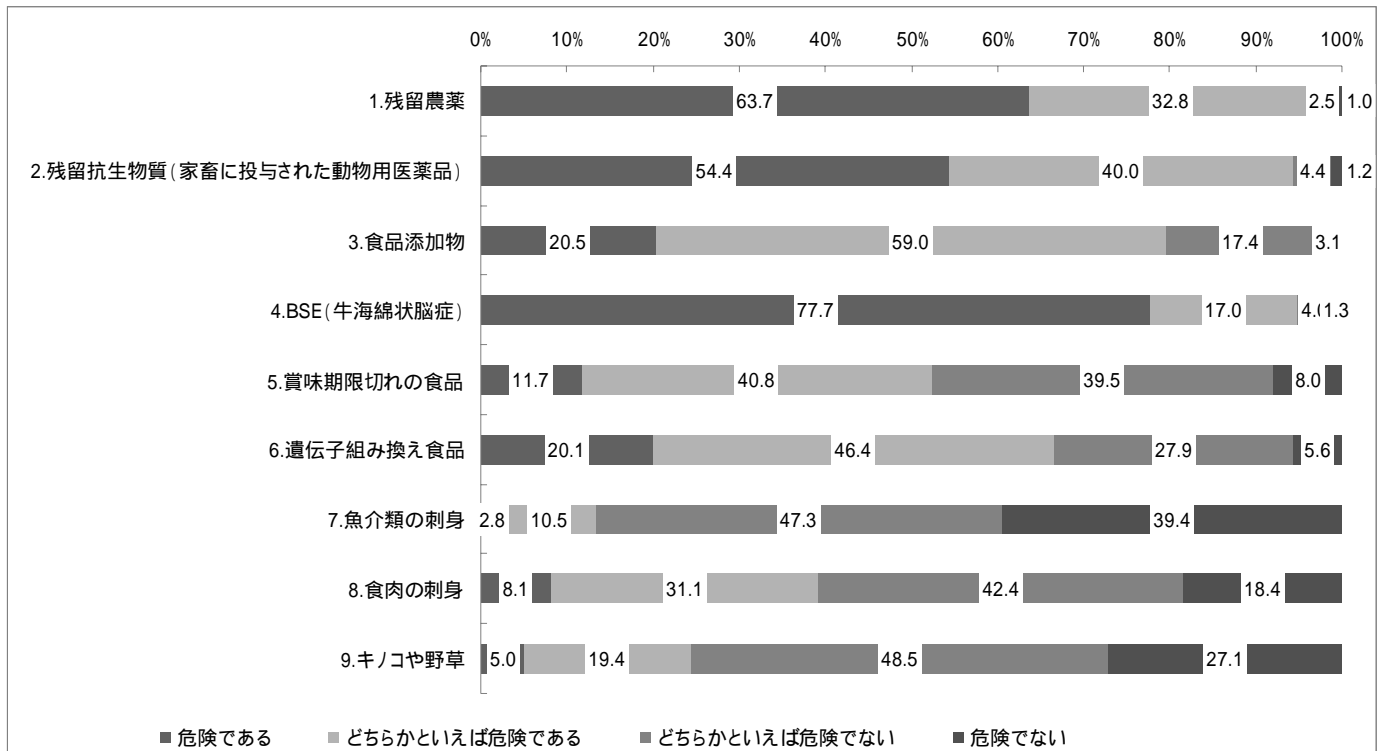


図 1.2.63 消費者の健康に対するリスク認知 (n=1000)

本調査研究では、更に消費者の健康に対するリスク認知の因子分析を行った。結果は以下の通りである。

食品の危険に関連する9個の項目について、因子分析を行った(主因子法、バリマックス回転)。回転後の因子負荷量を表に示す。第一因子に因子負荷量の高い項目(0.60以上)は、「残留農薬」「残留抗生物質」「BSE」「食品添加物」「遺伝子組み換え食品」から構成される「因子」であった。これらのリスクは、消費者から制御不可能であることから、第1因子を「制御不可リスク」と命名した。第2因子は、「キノコや野草」「魚介類の刺身」「食肉の刺身」「賞味期限切れの食品」から構成されるため、第2因子を「制御可能リスク」と命名した。(累積説明率 58.2%)

表1.2.8 健康に対する危険の程度に関する因子分析結果

	成分	
	第1因子(制御不可リスク)	第2因子(制御可能リスク)
残留農薬	0.823	-0.032
残留抗生物質	0.827	0.042
食品添加物	0.639	0.322
BSE(牛海綿状脳症)	0.736	-0.034
賞味期限切れの食品	0.390	0.443
遺伝子組み換え食品	0.601	0.359
魚介類の刺身	0.037	0.853
食肉の刺身	0.158	0.797
キノコや野草	-0.028	0.768

回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法  
a. 3 回の反復で回転が収束

【生食の有る人と無い人との違い】

この3ヶ月に食肉を生で食べたことがある人となない人とで、9項目に対するリスク認知の違いがあるかについて、因子分析を行った。表に示すように、この3ヶ月に食肉を生で食べたことがある人となない人とでは、第1因子、第2因子で構成される項目に大きな差はない。

したがって、この3ヶ月に食肉を生で食べたことがある人となない人で、食品に関連するリスクの捉え方には差がないといえる。

表1.2.9 健康に対する危険の程度に関する因子分析結果（生食の有無別）

この3ヶ月に食肉の生食のある人

	成分	
	第1因子(制御不可リスク)	第2因子(制御可能リスク)
残留抗生物質	0.824	0.027
残留農薬	0.822	-0.056
BSE(牛海綿状脳症)	0.720	-0.094
食品添加物	0.691	0.235
遺伝子組み換え食品	0.604	0.253
賞味期限切れの食品	0.407	0.400
食肉の刺身	0.149	0.879
魚介類の刺身	0.071	0.878
キノコや野草	-0.072	0.775

回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法  
a. 3 回の反復で回転が収束

この3ヶ月に食肉の生食のない人

	成分	
	第1因子(制御不可リスク)	第2因子(制御可能リスク)
残留抗生物質	0.830	0.066
残留農薬	0.827	-0.003
BSE(牛海綿状脳症)	0.745	0.022
食品添加物	0.584	0.399
遺伝子組み換え食品	0.583	0.438
賞味期限切れの食品	0.365	0.493
食肉の刺身	0.170	0.747
魚介類の刺身	0.002	0.834
キノコや野草	-0.010	0.769

回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法  
a. 3 回の反復で回転が収束

【食品安全情報の入手先】

日頃、食中毒など食品の安全性に関する情報をどのように得ているのかについて、参考になっている順に回答を求めたところ、第1位はテレビで、第2位は新聞・雑誌・書籍、第3位はインターネット、第4位は口コミ、第5位はパンフレット・チラシの順であった。図 1.2.64 は、情報の入手先ごとに順位の回答の平均値と標準偏差を示したものである。

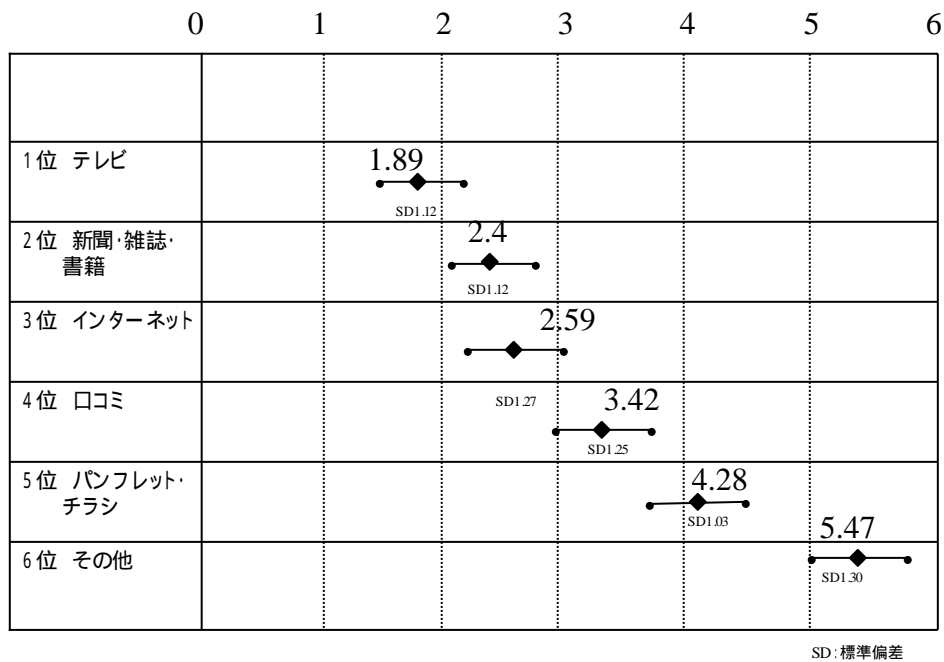


図 1.2.64 食品の安全性に関する情報の入手先の参考にしている順位

年代別にみて全体と平均値で順位が異なるのは、20代男性、30代男性、20代女性で2位インターネット、3位新聞・雑誌・書籍の順、60代女性で3位口コミ、4位インターネットである。

表 1.2.10 年代別の食品の安全性に関する情報の入手先の参考にしている順位

	1位	2位	3位	4位	5位
20代男性	テレビ 2.08	インターネット 2.31	新聞・雑誌・書籍 2.81	口コミ 3.24	パンフレット・チラシ 4.23
20代女性	テレビ 2.06	インターネット 2.29	新聞・雑誌・書籍 2.91	口コミ 3.06	パンフレット・チラシ 4.38
30代男性	テレビ 1.99	インターネット 2.28	新聞・雑誌・書籍 2.51	口コミ 3.55	パンフレット・チラシ 4.44
30代女性	テレビ 1.79	新聞・雑誌・書籍 2.52	インターネット 2.55	口コミ 3.29	パンフレット・チラシ 4.38
40代男性	テレビ 1.89	新聞・雑誌・書籍 2.24	インターネット 2.61	口コミ 3.48	パンフレット・チラシ 4.18
40代女性	テレビ 1.80	新聞・雑誌・書籍 2.38	インターネット 2.68	口コミ 3.34	パンフレット・チラシ 4.44
50代男性	テレビ 1.96	新聞・雑誌・書籍 2.44	インターネット 2.66	口コミ 3.59	パンフレット・チラシ 4.38
50代女性	テレビ 1.64	新聞・雑誌・書籍 2.20	インターネット 2.78	口コミ 3.70	パンフレット・チラシ 4.12
60代男性	テレビ 1.84	新聞・雑誌・書籍 1.85	インターネット 2.85	口コミ 3.78	パンフレット・チラシ 4.20
60代女性	テレビ 1.82	新聞・雑誌・書籍 2.05	口コミ 3.20	インターネット 3.23	パンフレット・チラシ 3.95

本調査では日頃情報源としている媒体について、自由記述回答を求めた。表は、自由回答記述欄に記載された情報源である。回答が一人であっても、情報源として列挙している。記載された中で回答数が多いのは、テレビのニュースや新聞（一般紙）、インターネット・ポータルサイトである。

表 1.2.11 普段の情報の入手先

分類	具体的な情報媒体
テレビ	NHK のニュース、民放のニュース、情報番組（ためしてガッテン、おもいっすりテレビ、朝のワイドショー（めざましテレビ、ズームイン）、TBS「ピンポン」）、報道番組（報道ステーション、ニュースステーション、ニュース23、ニュースジャパン、ワールドビジネスサテライト、ZERO など）、お料理番組、バラエティ番組（たけしのブラックホスピタル）
新聞	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、日経新聞、東京新聞 スポーツ新聞、日刊ゲンダイ、夕刊フジ、世界日報新聞、新聞「赤旗」、聖教新聞
インターネット	Yahoo、goo、Google、infoseek、asahi.com、読売ネット、毎日新聞ネット、CNN.jp、Excite、Nikkei net、BIGLOBE、nifty、OCN、楽天検索、livedoor、so-net、Yahoo! BB、2ちゃんねる、All About の食と健康、「食品と暮らしの安全」のHP、foodscience のサイト、Mixi、MSN、wikipedia、口コミ掲示板、食に関するホームページ、お店紹介のホームページ、pubmed などの医学論文サイト、生活ガイド、ぐるなび、ブログ、阿修羅のホームページ、食肉関係のホームページ、食品加工業者のサイト、研究者のサイト、TBS のホームページ、ベネッセウィメンズパークのホームページ、メルマガ（日刊毒舌ニュース）
ラジオ	AM ラジオ、TBS ラジオ
雑誌	R25 などフリーペーパー、ニューズウィーク、ダイヤモンド、東洋経済、文春、新潮、ぴあ、日経トレンディ、ファッション誌（WITH・MORE）、女性向雑誌、健康関連誌、趣味的雑誌、オレンジページのような主婦向け雑誌、雑誌 ESSE、クスリのシバタからの月刊みすみ、安全性、医学雑誌、飲食店のページ、食生活、
公共機関からの情報	関係官庁（厚生労働省、農林水産省など）のHP、自治体（区役所・保健所など）の広報紙、東京都ホームページ（事故発生など話題になった時だけ）、東京都福祉保健局のホームページ、保健所で配られるパンフレットや冊子その他資料、研究機関のホームページ、国立感染症のHP
その他	生活クラブの「生活と自治」冊子とカタログ、電車の中吊り広告、書店の平積み、友人との会話の中で、仕事が検査に関係しているので仕事関係の書籍など、職場の同僚、料理本のレシピの中から、シティリビング



東京都福祉保健局のパンフレットやホームページを読んだことがあるかについても尋ねている。「知って防ごう!カンピロバクター食中毒(インターネット)」、「知って防ごう!カンピロバクター食中毒(パンフレット)」、「健康食品ウソ?ホント?」、「防ごう!ノロウイルス感染」、「お肉の生食や加熱不足にご注意!」の5つについて読んだことがあるかを尋ねた。5つとも「読んだことがない」の回答が多数を占めるが、その中でも、「防ごう!ノロウイルス感染」については、11.4%が読んだことがあると回答した。カンピロバクターやお肉の生食に関するパンフレットやインターネットを読んだという回答は極めて少ない。

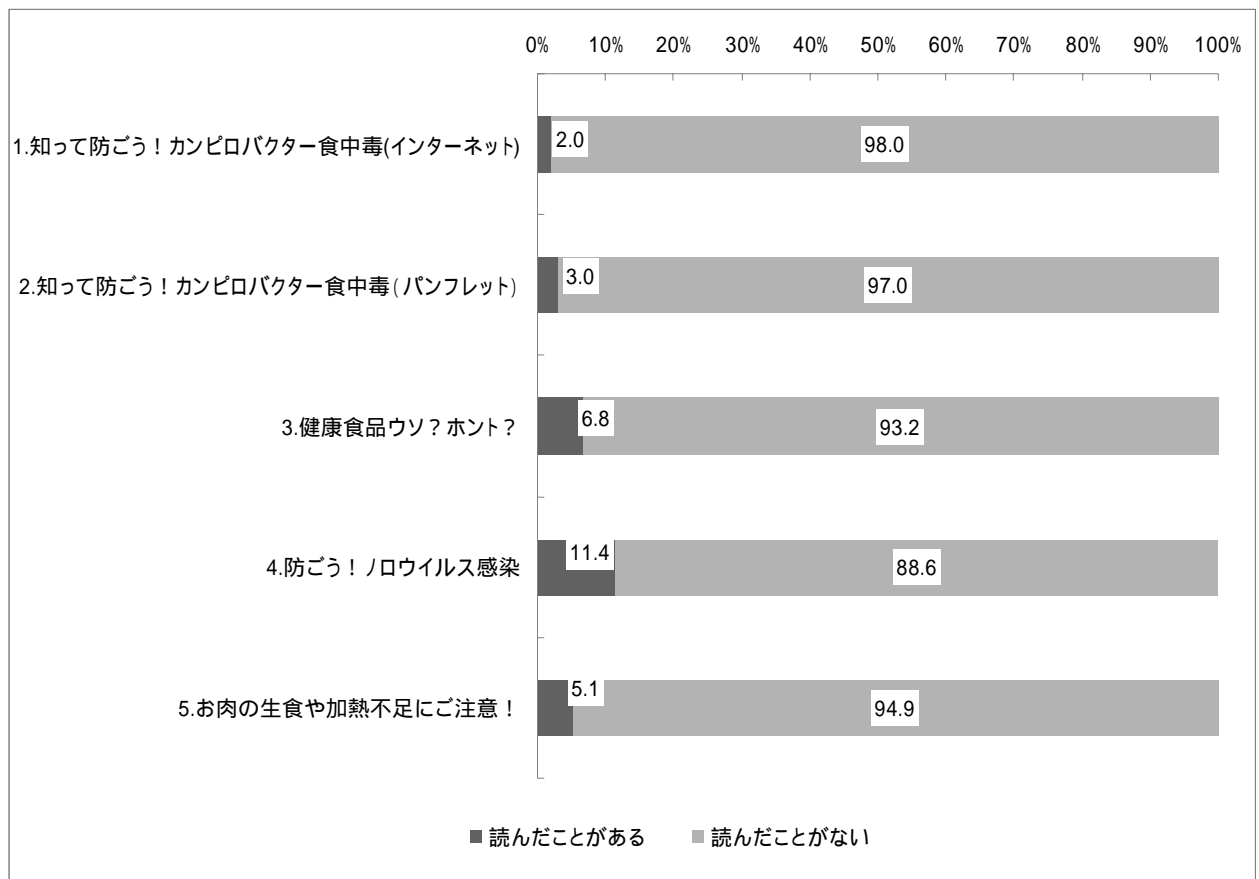


図 1.2.65 東京都のパンフレットやインターネットを読んでいるかどうか (n=1000)

年代別では、50代、60代でパンフレットを読んだことがある割合が、他の年代より高い。

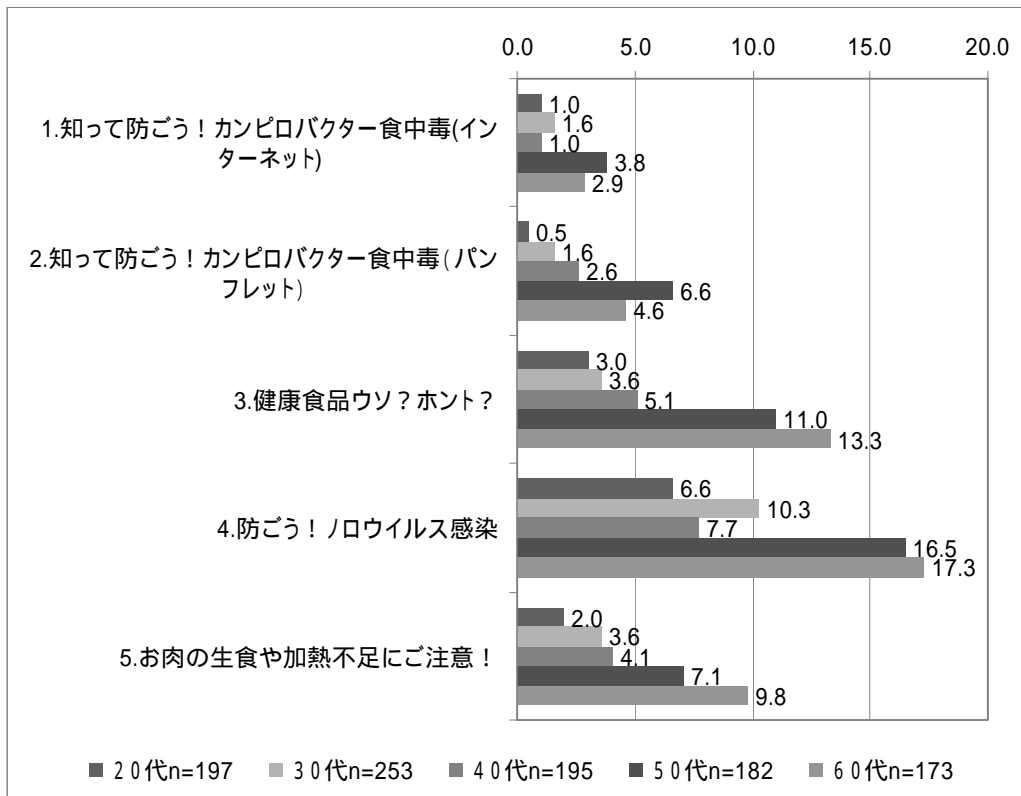


図 1.2.66 年代別の東京都のパンフレットを読んだことのある割合

東京都のパンフレットの「お肉の生食や加熱不足にご注意!」を読んでいる人と、読んでいない人とで、Q3「8.食肉の刺身」に対する危険認知に違いがあるのかについてみると、読んだことのある人の方が、読んだことのない人よりも、危険である、どちらかといえば危険であるという回答が高く、この結果から、パンフレットを読んでいる人、即ち知識のある人のほうが危険の意識が高いことが示唆される。

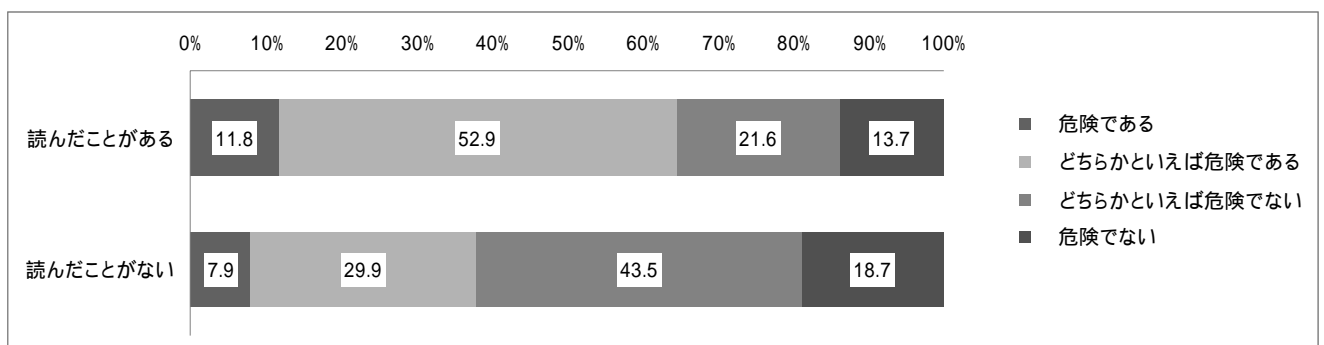


図 1.2.67 東京都パンフレット「お肉の生食や加熱不足にご注意!」を読んだかどうかによる、Q3「8.食肉の刺身」に対する危険認知  
(読んだことがある n=47, 読んだことがない n=698)

読んでいる人と、読んでいない人とで、生食による食中毒の情報の入手先の違いをみると、読んだ人は、「保健所の講習会やパンフレットで知った」の回答が21.3%あり、読んでいない人の2.7%に比べて高いことが分かる。

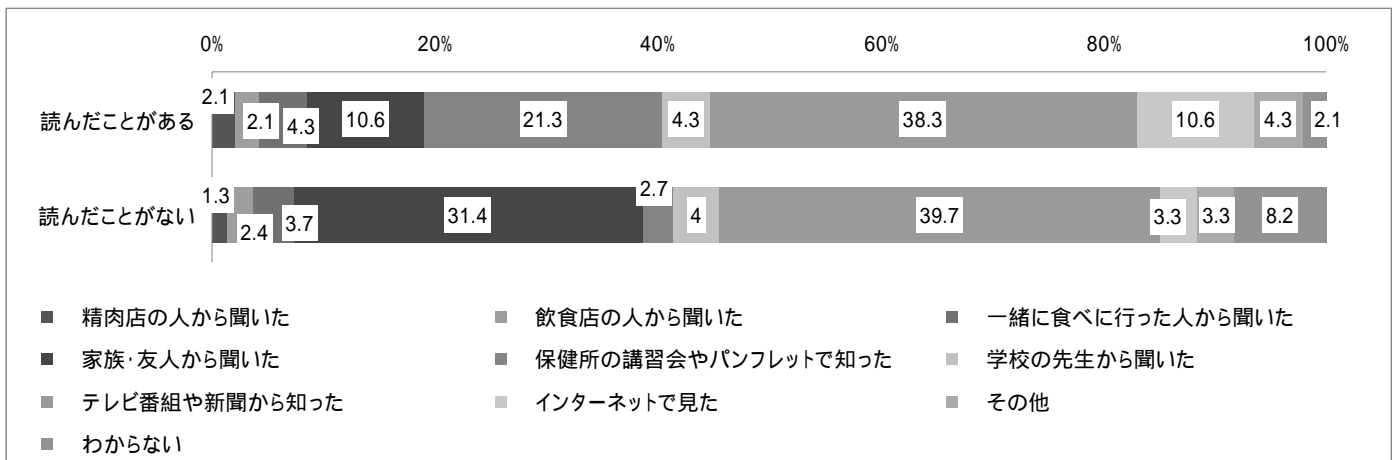


図 1.2.68 東京都パンフレット「お肉の生食や加熱不足にご注意!」を読んだかどうかによる、食中毒の情報源（読んだことがある n=47, 読んだことがない n=698）